

青春・夢 in KOBE



神戸・菅原奨学金

No.31 2021.12





奨学生会報 第 31 号の発行にあたって

神戸市長 久元 喜造

神戸は 1868 年の開港以来、国際港湾都市として発展し、150 年以上にわたり多くの外国人に愛されてきました。近年、神戸市に転入される外国人の数は増え、現在、留学生をはじめ約 4 万 8 千人の外国人の方がお住まいになっています。

神戸市の留学生への奨学金制度は 1985 年に始まりました。篤志家の故菅原一郎氏が、神戸で学ぶ留学生の皆さんが安心して勉学に励むことができるようにとの思いで 1988 年に神戸市に多額のご寄付をされ、翌 1989 年、「神戸・菅原奨学金」として拡充されました。これまでに 35 か国・地域から 700 人を超える留学生がこの奨学金を受けられ、神戸市内の大学・大学院を卒業し、世界各地で活躍されています。

さて、新型コロナウイルス感染症の影響により、渡航制限をはじめ人と人との交流機会が大きく制限されるなど、様々な制約のある状況が続いています。そのような中でも、奨学生の皆さんはオンラインも活用し、勉学や交流、奨学生としての活動を行うなど、工夫しながら神戸での留学生活を送っていると聞いております。どうかこのような状況に負けず、この神戸の地で勉学に励み、ご自身の専門分野を深めていってください。そして、ひとりで心細い時、不安な時には、ひとりで悩まず、私たちに相談してください。同じ境遇で過ごしている奨学生の皆さん同士で悩みを共有しあい、前向きに過ごしてください。神戸での留学生活が、実りあるものとなり、皆さんの将来につながることを期待しています。

奨学生 OB・OG の皆さんには、神戸で得た経験や人脈を生かし、神戸と母国の架け橋になっていただくことを期待しています。皆さんが実際過ごして感じた神戸の魅力を SNS で共有いただければ、多くの学生が神戸を知り、神戸に留学したいという皆さんの「後輩」が生まれるきっかけになるかもしれません。また、奨学金同窓会や、神戸の応援組織である「Kobe International Club」への参加を通じて、神戸との繋がりや神戸への愛着を持ち続けていただき、世界中で、神戸の魅力を発信いただければと思います。

最後になりましたが、奨学生の皆さんの神戸での益々のご活躍を祈念するとともに、日頃より奨学生をご支援くださっている方々に心より感謝申し上げ、ご挨拶とさせていただきます。

令和 3 年 12 月



神戸・菅原奨学金への想い

株式会社エモック 代表取締役 菅原 隆司

留学生の皆様におかれましては、ご家族やご友人と会うことができない状況が続
き、大変つらい日々をお過ごしでいらっしゃるかと思います。2020年から始
まったパンデミックは未だ収束をみせませんが、徐々にではありますが状況は好転
しつつあるように思います。

留学生の皆様には、様々な学びの機会、日本文化に触れる機会、楽しい思い出を
作る機会が制限されるなかではありますが、学ぶ意欲を強く持ち、お互いに励まし
あって良い留学生活を送っていただきたいと心から願っております。神戸・菅原奨
学金の人々の繋がりがその一助なれば、大変うれしく思います。

最後になりましたが、本事業にご協力下さる神戸市の関係者の方々に深く感謝申
し上げ、またこれからも本事業に末永くご尽力下さいますよう心よりお願い申し上
げます。

表紙のデザイン紹介



名前：高 夢嘉
出身：中国
所属：神戸大学
経営学研究科
博士課程後期
3年

神戸に来て5年目ですが、一番印象
的なのは「海側」と「山側」を使って
方向を表示します。神戸で道に迷って
も慌てる必要はありません。「海」か
「山」を探したら、街中での方角が分
かります。それは神戸の市街地は大阪

湾と六甲山地の間に広がる地形となっ
ているためです。海側に港風景を望む
ハーバーランドがあり、山側にはハー
ブ園、摩耶山などがあります。さらに、
北野異人館には異国情緒が色濃く残っ
ているため、神戸の街はスタイルとフ
ァッションに溢れています。そのため
に、神戸の代表的な観光地を選び、『花
森安治のデザイン』を参考し、表に
「海側」、裏に「山側」を描きました。
これをきっかけに、より多くの方に神
戸の美しさを感じていただきたいと思
います。

菅原一郎氏～個人財産 10 億円を寄付、累計 700 人超の留学生を支援

この文章は神戸・菅原奨学生 OG 張燕波さん（2013～2014/2016～2017 年度生）が奨学金基金の寄付者である故菅原一郎氏について取材、執筆し国立研究開発法人科学技術振興機構（JST）の中国向けポータルサイト『客観日本』に掲載（2021 年 6 月 21 日）された中国語による記事を、張氏が日本語訳で要約しさらに編集部で一部修正したものです。

（原文）https://www.keguanjp.com/kgjp_jiaoyu/kgjp_jy_lxzc/pt20210621000002.html

菅原一郎氏は会社経営者であった 1980 年代、アジア諸国から来た留学生を支援するために個人の財産 10 億円を神戸市に寄付。



菅原一郎氏

写真提供：菅原氏のご子息より

菅原氏は 1917 年 5 月、神戸市長田区五位ノ池町に住む菅原家の 7 人兄弟姉妹の長男として生まれました。25 歳の時には徴兵され軍隊に入り、30 歳まで兵役に就きました。菅原氏は軍隊時代を振り返って、「互いに戦争するのは絶対あかんね。要するに、楽しかったことはあまりないな。苦勞して辛かったですよ。」と語っていました。

戦争が終わり、日本では廢墟からの再建が始まった。菅原氏はいろいろ考えた末に、木材工場を立ち上げました。裸一貫からの出発でした。戦後の日本では、木材が不足していたので、菅原氏は、マレーシアやフィリピンなど東南アジアの国々から木材を輸入しました。事業を成功させた菅原氏は常に、「東南アジアの国々のお蔭で今日の私の事業がある」と、感謝の言葉を口にしていました。

日本は 1980 年代にはいち早く、先進国になっていました。しかしアジア諸国の多くは未だに発展途上国であったことから、神戸市はアジア諸国から神戸に来る留学生を支援するために 1985 年から、市の予算の一部を投入して経済的に困窮している留学生に奨学金を支給する事業を開始しました。菅原氏は古希を

迎えた 1988 年、ある決断をしました。自らの手で築き上げた事業の一部を売却し、その中から 10 億円を神戸市に寄付し、アジア諸国から来た経済的に苦しい留学生を支援しようと考えました。

生前の菅原氏宅を訪問した「神戸・菅原奨学金」の奨学生らによる談話記事によれば、起業時からの経験により「日本が木材不足だったために東南アジアから木材を輸入した。東南アジアから木材を輸入できたからこそ、自分の今日の生活があり、日本人の今日の生活がある。東南アジア諸国に感謝している」と考えていたことが分かる。戦争については「世界が皆ね、これからだんだん良くなるんじゃないか？ 原爆も何も全部なくなりゃええのにねえ」「世界を平和にして、戦争もせんと、軍費に金かけんと、皆が仲良く交流してね。そんな時代を手がけていかんとね。それに奨学金も役立ててくれたらね」と語っていました。この談話記事から、菅原氏が伝えたかったことは次の 3 点が考えられます。①他人を助けること、②恩を知ること、③世界平和——です。10 億円の寄付も尊いことですが、この 3 点はもっと尊いことです。この 3 点こそ、菅原氏の社会や若者たちへの期待と言えるでしょう。「神戸・菅原奨学金」の奨学生の皆が菅原氏のご遺志を継承することこそが、菅原氏への最善の恩返しだと考えています。

会報目次

奨学生会報 第31号の発行にあたって		神戸市長 久元 喜造	1
神戸・菅原奨学金への想い		株式会社エモック 代表取締役 菅原 隆司	2
表紙デザイン紹介		高 夢嘉	
OB・OG だより	菅原一郎氏~個人財産 10 億円を寄付、累計 700 人超の留学生を支援	張 燕波	3
■留学生活・交流活動	多彩な日本留学生活	張 伯聞	5
	日本での留学生活	許 潔	7
	日本での留学生活	李 蓉	9
	新型コロナウイルス感染症対策、外国人留学政党支援事業・子供食堂	THAPA SHEKHAR	11
	日本での留学生活・出会えば縁だ アルバイトから得た経験	ヴォティミイフォン	13
■私たちが見た日本・神戸	私の日本での旅行	胡 徳贇	15
	How I see Japan and Kobe?	Inggang Perwangsa Nuralam	17
	時空のかけらを拾う旅人	金 垂奇	19
	私の日本記憶	湯 慧玲	21
	「神戸人」になるために;神戸で出会った人々を想って	Thai Thi Ha Giang	23
■異文化比較	Muslim: Resurrection of a lost heritage Mohammad Zahidul Islam	Mohammad Zahidul Islam	25
	中国の火鍋と日本のしゃぶしゃぶ	崔 夢影	27
	ベトナムの結婚式文化について	NGUYEN VAN NAM	29
	ドイツの秋の祭りと冬の祭り	Bach Patrick	31
■母国情報・紹介	Welcome to Tanzania	Jackson Makange	33
	ベトナムの「ダナン」・最先端リゾート地	NGUYEN VAN DUNG	35
	セイロン紅茶	INDURUWE SANKA VIRAJ	37
	中国浙江省の食巡り	王 文慶	39
	子供たちの夢を実現させるために	Duongthihong	41
	「インド洋の真珠」と呼ばれる母国スリランカについて	Jayalath jayalathge dona udari prarthana	43
■私の家族	我が家の宝物ー私の家族	易 苑莎	45
	人生の中、最高の家族	林 綺婷	47
■論文・研究内容の紹介	Introduction of My research -How employment affects subjective well-being among older adults	姜 茗予	49
	対話ログ要約に基づく個人適応対話の生成	陳 思楠	51
	中国語を母語とする日本語学習者の発話における漢語使用の実態ー「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査ー	鄧 琪	53
■日本人から見た留学生	Be KOBE	ARUHAN	55
	日本人から見た留学生	許 佳雯	57
■自由投稿	時間しかない	Palau Andres Javier	59
	村里(田舎から)来的(来た)	劉 寧	61
活動アルバム			63
アフターコロナを見据え、奨学生の皆様へ	(公財)神戸国際コミュニティセンター 理事長 武田 廣		66

多彩な日本留学生生活



名前：張 伯聞
 出身：中国
 所属：甲南大学
 自然科学研究科
 修士課程
 2年

2017年4月、日本留学生活に憧憬を抱いた上で人生で初めて日本に参りました。ほかの留学生のように日本にきた前にもう日本語を多少話せるのではなく、私は本当に「こんにちは」「ありがとうございます」くらいしか話せません。最初、東京の日本語学校を通いながらアルバイトするという生活を送っていました。道が分からないことと買い物の時に日本語が通じないことはよくありました。でも、毎回困った時に一般市民の皆さんの誰でもとても親切で優しく助けてくれました。その時から、絶対に日本語を頑張ります、日本語が通じられたら絶対に他人に助けますと決意しました。目標を達成するために、私は東京池袋の漢語コーナーに参加しました。なぜ日本語コーナーではなく漢語コーナーなのかという疑問があるかもしれませんが、実は私はいろいろ試してみたのですが、結局日本語能力の不足でいくつかのボランティア活動に参加許可をもらえなかったです。逆に、中国語を勉強したい漢語コーナーでに行くと、母語を教えるだけでなく、日本語も自然に勉強できました。

2019年4月、ようやく指導教授と研究内容を相談したうえで甲南大学に受けて神戸にまいりました。すでに日本にいる2年の私は、日本語が通じられるだけでなく、日本の生活

にも慣れてきました。この間、「大学 KOBE! 発信」というプロジェクトではボランティア募集を情報発信しました。「大学 KOBE! 発信」は神戸市にある約20個の大学の研究内容を一般市民へ紹介する、普及するためのイベントです。同時、およそ1カ月続く予定の運営には多言語対応できるボランティアが望ましいと言われていたので、日本語、英語が対応できる私は応募しました。お客様は日本の方はもちろん、外国の旅行者もたくさん来ていたので、ボランティアとして大学を紹介し自分の価値を発揮できてとても光栄で楽しかったです。また、印象が残ったのは、旅行に来た中国人のおじさんは自分の息子を日本の大学を留学させたいという意思が伝えられましたが、私は母語で対応しました。その後、イベント参加者の先生から今日は張君がいなければ困りますねと褒めて頂きました。



グランフロント大阪で「大学 KOBE! 発信」という大学研究展

夏が来ました。私は研究室の先輩と一緒に伊丹市のある老人ホームに訪問し、高齢者の方に身体検査をさせていただきました。年になると動きにくいおじいさんとおばあさんが何名いるということはよくわかりました。私は一番心配するのは高齢者です。昔は中国にいる時自分のおじいさんも体の問題で移動するのが難しいですので、その時から高齢者の世話をする経験を積みました。高齢者の性格と考え方は子どもと極めて似ていると感じたので、助けてあげる時に非常に丁寧に、話す時に非常に優しくする必要があります。とにかく暖かい行動をあげたり細かいことまで気配りしたりすると、高齢者は幸せになるわけです。

2020 年は毎日研究と勉強の一年でした。甲南大学では甲南の人だけでなく、他の大学さらに外国から交流に来た先生や研究者、学生の研究成果と発明を発表する時期が来ました。国際交流のため、私は英語で研究ポスターを作成しました。正直、日本に来る前に、英語の書く能力と読む能力を持っていますが、なかなか話せない、話す機会もなかったという問題があります。日本の留学生活のおかげで、日本語だけでなく英語を話すのも練習できました。日本は国際化の国家だと感じました。研究テーマは日本語に訳すと AI で歩行者支援システムの開発です。先生から手厚いご指導と学生たちの助け合いの頂いた上で、AI 知識、数学、コンピューター知識を修得しましたので、今の研究結果がありました。私は一生、恩師を忘れません。



研究発表会

最近、コロナウイルスの影響により、授業、会議、アルバイト、活動のいずれもオンライン化になりました。デメリットはもちろんたくさんあると誰でもそう思っていますが、メリットも多少あると思います。例えば、従来によくカラオケやバーに行く人は外に行けなくなったので、自分の未来を良く考える時間を確保されました。私ももともと留学する意味を再び考え、家でゆっくり情報を整理し将来日本にいるために資格認定の準備や在宅勤務のアルバイトで努力しています。しかし、今まで長い間で友達に会えなくて、屋外のいろいろなボランティア活動やイベントにも参加できなくなりましたので非常に心が苦しくと思います。下の写真は去年に研究室の皆さんで行った同窓会です。その日は、ビールも飲みましたのでとても楽しかったです。今はコロナでアルコール販売が少なくなり、友達と暮らす時間が少なくなり、以前の飲み会がとても懐かしい思い出になりました。



同窓会

将来、絶対にコロナのない日が来るはずだと思いますので、その日を期待しています。これから、また 3 年の貴重な留学生活がありますが、未来に後悔しないように、コロナに負けせず、時間を無駄にせず、毎日元気にやっていきたいと思っています！

日本での留学生生活



名前：許 潔
出身：中国
所属：神戸大学
国際文化化学研究科
修士課程
2年

2019年4月から私の日本神戸での留学生生活は始め、もう2年余りの時間が過ぎた。みんなそうであるように、初めて経験する留学生生活は、不思議さと怖さそして挫折と成就が混じっている過程だった。振り返ってみると、いつも楽しさばかりの留学生活ではなかったにもかかわらず、今日まで無事に日本で過ごせたのは、周りの多くの人々のサポートと心のこもった関心があったからに違いない。日本、そして神戸という美しい都市で出会った全ての、貴重なご縁に心から感謝している。



留学生活に大きな支えになってくれた研究室の友達!

2年前、日本に来たばかりの私は日本語にも日本文化にも素人であった。その時、ためらわ

ずに私に近付いてきてくれた研究室の日本人の友達がいる。今は一緒にお酒を飲みながらお互いの悩みを打ち明けるほど親しい友達になった彼女のおかげで、あらゆる方面で下手だった私が、日本のいろんな文化や暗黙のルールや習慣を身につけることができた。そして、パンダミック状況で母国へ帰ることができなかったこの2年間、毎度名節が近づくと、研究室の留学生たちは誰も彼も集まって、それぞれの故郷の料理を作って食べ、おしゃべりをしながら、故郷の家族と友達への懐かしさを一緒に慰めた。彼らは留学中の私の心の拠り所だった。



留学生友達と作った粽子(ちまき)、中国では端午節に粽子を食べる習慣がある

留学過程で唯一残念な点があるとしたら、最初の期待とは違って多くの日本人学生たちそして各国の留学生たちと積極的に交流することができなかったことだろう。大学院に入学した2020年にコロナの感染が爆発し始めたので、今まで2年余時間の間ほとんどすべての授業がリモートに変わり、研究室の同僚以外の学生と対面する機会がなかなか見つからなかったのだ。そんな中、神戸国際コミュニ

ティセンターの奨学生に選ばれる幸運は、私に一つの文化コミュニケーションの窓口を開いてくれた。先日、KICC が主催した異文化交流サロンというイベントにボランティアとして参加した。そんなに長い時間ではなかったが、日本のみならずスリランカ、インドネシアなど世界各地の文化の多様性を感じることができた。この異文化交流の機会を通じて私は世界を見る視野を一層広げることができたと思う。残り少ない留学生活だが、一日も早くコロナが収まり、以前の平穏な生活ルーチンに戻り、このような貴重な交流イベントが再び活発に開催されることを心より期待する。

変わった環境で経験したことない新しい生活と挑戦に出会うことができるのが留学の一番のメリットだと言う。しかし、パンダミックの状況で学校に行くことも、外食も、アウトドア活動もほとんどできなかった 2 年余りの生活を送ったからこそ得たもう一つの貴重な何かがある。それはひとりでも充実に時間を過ごせるようになり、自分自身についてもっと深く知るようになったことだ。留学する前までの私は家族、友達、ルームメイトなどいつも空間と時間を共有してきたから、完全なひとり暮らしをしたことがないと言っても過言ではない。多様な交流活動や豊かな余暇生活など留学に対する期待がコロナによってある程度挫折したのは確かであるが、他国での予想もできなかった[一本たち]の経験を通じて、一人だけの時間を充実に過ごせる趣味を得、また寂しい生活に時たま訪れる負の感情を解消する自分なりのスキルを獲得することができた。

人生全般から見ると、神戸での留学生活は人生の一つのチャプターに過ぎないかもしれないが、この過程では学術的な成長だけでなく自分に対する洞察力、ご縁を大切にする方法、そしてこの世に対するもっと広い視野など多くの貴重なものを得た。そして神戸での留学生活で得た成就是、迷いながらもますます

成長していく私が、より明るい未来を作るための大切な土台になってくれると信じて疑わない。



日本人友達からの年賀状

日本での留学生生活



名前：李 蓉
 出身：中国
 所属：神戸大学
 経済学研究科
 修士課程
 2年

日本に来たのは2018年の4月だ。日本語が下手だった。ただ一番簡単な挨拶しかわからなかった。緊張とともに興奮の気持ちを持って、飛行機で日本の東京に到着した。東京で新しい生活を始めた！アルバイトをしながら、日本語学校に通っていた。進学のために、2020年、神戸に来て、2年間の大学院生活を続けている。今まで、この2年間で4分の3の時間が過ぎた。以上が、私の日本留学の大まかな活動軌跡だ。

自分の意志で日本に留学して違う世界を見たいのほか、もう大人なので、家に負担をかけたくない。それで、アルバイトを通じて、自分で生活費と学費を全部負担したい。だから、日本に来るとすぐにアルバイトを探し始めた。だから、日本では、アルバイトをしながら勉強するのが私の生活の大体のトーンだ。今まで、居酒屋、スーパー、コンビニの三つのアルバイトをしたことがある。

私の最初のバイトは「磯丸水産」という居酒屋で、主にキッチンで料理をしていた。ある先輩の紹介のおかげで、日本に来たばかりの頃、給料のいい仕事を見つけて、普段の費用を賄うことができた。一番印象的だったのは、1日目だ。新店オープンで、開店前の準備をしなければならない。テーブルや椅子の揃



初めてのバイト先——磯丸水産（上野駅前店）、2018年5月に新店オープン

い、キッチン道具や食器、食材の準備と洗い、そしてすべての料理の事前練習などのことがあって、最後に、全員が集まって最初のお店の料理を食べることに楽しんだ。

この居酒屋に特別な感情を持っている。理由としては、第一に、それは私が日本に来て開いた最初のアルバイトの店だった；第二に、私はその最初のスタッフで、そのゼロからのプロセスを見てきて、自分が日本でもゼロからスタートしたことに特別な意味があると感じた。私にとって意味のあるアルバイトで、店長をはじめとする正社員たちも親切にしてくれていたからこそ、東京にいる間ずっとこの居酒屋で働いていた。自分の業務能力も時間が経つにつれて伸びてきて、一年くらいすると、料理を作ってキッチンでも一人前になり、新入社員にも教えることができるようになった。店長からの信頼もあって、頼もしい仲間を紹介してくれと何度も頼まれた。しかし、一年半ほどして、自分の進学の都合で辞めざるを得なくなった。

その後、神戸に来て、ありがたいことに、コープというスーパーの店長のお世話で、神戸に来たときからすぐにアルバイトを始めて生活費を稼げるようになった。ここでも、同じ大学生のアルバイトに何人も会った。私たちは始業前に、マネージャーが前日の営業状

況を説明したり、注意事項を説明したりして、一人一人にタスクを与える短いミーティングを行っている。あとはジャンケンをやって、負けた人がみんなで挨拶の練習をする。この雰囲気は比較的リラックスしていて、ゆったりとしているが、みんな責任を持って一つ一つのタスクをこなし、お互いに助け合っている。

もう一つはコンビニでのアルバイトだ。多くの人がコンビニでアルバイトをする中、私は遅ればせながらコンビニでアルバイトを始めた。コンビニの仕事を始める前は、コンビニの仕事は簡単だと思っていた。しかし、初めてレジに立ったときは、お客様の声かけから、おつりの精算、弁当の温め、タバコの販売など、ちょっとしたことに緊張して慌ただしかった。しかし、先輩の手伝いのおかげで、自分一人に対応できるようになった。やはり、本当のことを実践する。簡単そうに見えても、簡単にできるとは限らない。



多国籍の友人と交流する

この3つの仕事のおかげで、ここ数年の留学生活の中で学費と生活費を負担する収入が保障されている。学業と両立しながらのアルバイトは、確かに大変だが、充実していて、達成感がある。なお、これらの機会があることにも感謝している。そして、すべてのアルバイトの中で、多くの親切な先輩と友達に出会ったこそ、私はすぐなじみのない環境に慣れてきた。たくさんの新鮮なものを見て勉強すると同時に、多くの貴重な経験を収穫した。勉強、アルバイトのほかにも、フランス、ロシア、ミャンマー、ベトナム、タイ、インドなどのいろいろな国から来た仲間とよく集まって、遊んで、交流している。箱根やディズニーランドにも行ったし、一緒に食事をしながら話をした。生活を豊かにするだけでなく、異なる国から来た友人との交流を通じて、彼らの文化や習慣を理解し、包容力を持って様々な物事を見ることが出来る。

簡単に言えば、日本に留学したことは、私の貴重な人生の旅で、いい経験だ。留学こそ、日本だけでなく他の国からもたくさんの友人と知り合って、その間に会った人たちと経験した出来事の一つ一つが、私にとってユニークな意味を持っている。そして、私を助けてくれたすべての人に心より感謝している。いろんな方からの温かさがあったからこそ、異国にいても寂しいと感じない。

新型コロナウイルス感染症対策、 外国人留学生等支援事業・子供食堂



名前：THAPA SHEKHAR
出身：ネパール
所属：日本経済大学
経済学部
3年

私は、大学に入学してからこの2年間、部活動として、また地元の地域NPOの一員として、社会貢献活動に従事してきました。

具体的には、日本経済大学ユネスコクラブと神戸ユネスコ協会青年部での活動になります。

様々なイベントがありましたが、この1年間は新型コロナ感染症対策と向き合った日々でした。自分もアルバイトが激減する中でしたが、コロナ禍だからこそ、自分のことだけを考えてはいけなさと考えました。そして、今、何が出来るのかということ先生方やユネスコクラブ・神戸ユネスコ協会青年部の仲間達と力を合わせて考えました。

そして、特に2020年6月から神戸市・KICCから「新型コロナウイルス感染症対策、外国人留学生等支援事業」の助成を頂き、日本語学校・専門学校を卒業したにもかかわらず、フライトがなく帰国できなく、アルバイトも激減し、生活に困窮している留学への支援活動を展開することになりました。

その内容は、被援助者にとってより必要なものを届けるため、日本語学校経由で欲しいものヒヤリングして、1人5,000円分の支援物資を購入し、搬入するプロジェクトでした。

この神戸市・KICCのプロジェクトを通じて、困っているのは自分だけではないと思えるようになってきました。この支援プログラムは2020年9月から「三菱財団×中央共募～新型コロナウイルス感染下において困窮する人々を支援する助成」へ継続され、兵庫県、大阪府全域の日本語学校（在生学生も含む）を支援することになりました。神戸市・KICCのプログラムと三菱財団・共同募金を合わせると全体で129回、日本語学校・専門学校を訪問し、505人分支援を行いました。



日本語学校への留学生に支援物資を届きました（購入・搬入）

このプロジェクトを行って、数多くの日本語学校を訪問し、日本語学校の先生や生徒と直接会ってお話し、支援物資を渡したりすることで、多くを学びました。

ボランティアをする私たちは決して自分よりも困った人を見つけて安心した訳ではなく、他者のことを考えることで、皆でコロナを乗り越えなくてはならないと痛感したのです。コロナ禍は大変なパンデミックですが、援助を通じてコミュニケーションをとり、皆が繋がりが、様々な問題に立ち向かうことが求められていることを再認識しました。

更に、2020年10月から日本ユネスコ協会連盟の「2020年度青少年ユネスコ活動助成」を得ることができ、神戸市元町のアジア料理のお店「神戸アジア食堂バル SALA」を定期的



支援物をお運びました 国際語学院の皆様から頂いた写真

にお借りし、『神戸ユネスコ国際キッズカフェ』（子ども食堂）も実施しました。

私たちの「子ども食堂」では、留学生がベトナム、ネパール、モンゴル、ウズベキスタン、セネガル、ウガンダ、フィリピン、ミャンマー、中国、スリランカ等それぞれ国の料理を作り、来てくれた子どもたちに母国の文化や社会状況を紹介します。外国料理を提供するとてもユニークな子ども食堂ですが、子どもたちに神戸にしながら（少し辛くても）外国のリアルな食を味わって欲しいと願っています。



子供食堂に来てくれた子供達

それは、単にコロナ禍の貧困層対策だけではなく、食を通じた国際理解も目的とするものでした。コロナ禍の中でも、私たちはエッセンシャル・ボランティアと認識し、この子ども食堂を 2020 年度に 11 回、行いました。2021 年度も継続されており、現在も実施中です。

上記の 2 つのプロジェクトは、未来に繋がる企画であると考えています。今後、またパンデミックが発生するかもしれません。その時にどのように自分たちの生活を守るかという危機管理の意識を持たなければならないのです。

神戸において、神戸市や KICC とプロジェクトができたことは大変光栄でした。「神戸は人の中にある」というキャッチフレーズがありますが、コロナ禍の中、留学生同士、日本人と留学生が繋がれたことは良かったと考えています。

今後も私は、大学生生活において、できる範囲で精一杯、このような社会活動を行い、神戸と世界を繋げていきたいと願っています。

日本での留学生生活・出会えば縁だ アルバイトから得た経験



名前： VO THI MY HUONG
出身： ベトナム
所属： 流通科学大学
商学部
4年

誰でも子供の時から今まで、色々なひととであつたはずで。楽しい思い出もあれば、嫌な思い出ももちろんあります。出会った人との出来事を通して、自分を毎日少しずつ変わりつつあると私は強く思っています。

2018年4月、空港で家族、友達と別れて、神戸に来て、留学生生活を始めました。

今年で3年半になります。

海外に行ったことないので、飛行機に乗っていた時、色々なことを想像しました。もちろん、心配でいっぱいでした。その頃のことを思い出したら、今の私その頃よりより成長したと気がします。

私は、日本で初めてのアルバイトは居酒屋でのホールの仕事でした。こんなことが起こりました。今まで鮮明に覚えています。その日、いつものように新規のお客さんに注文を聞きに行ったとき、この言葉が返ってきました。

「外人か、嫌だな、日本語が話せる子頂戴、呼んで来い」と言われました。私はその頃、日本語はペラペラではありませんでしたが、ある程度、話せたり、聞き取ったりできるので、問題ないと思っていました。それで、そのお客さんには先入観があり、私の話を聞こうともせず、それは差別だと言いようがな

いと、私はその時思いました。ホールの仕事もやりたくなって、そのことを店長に話したら、慰めてくれました。

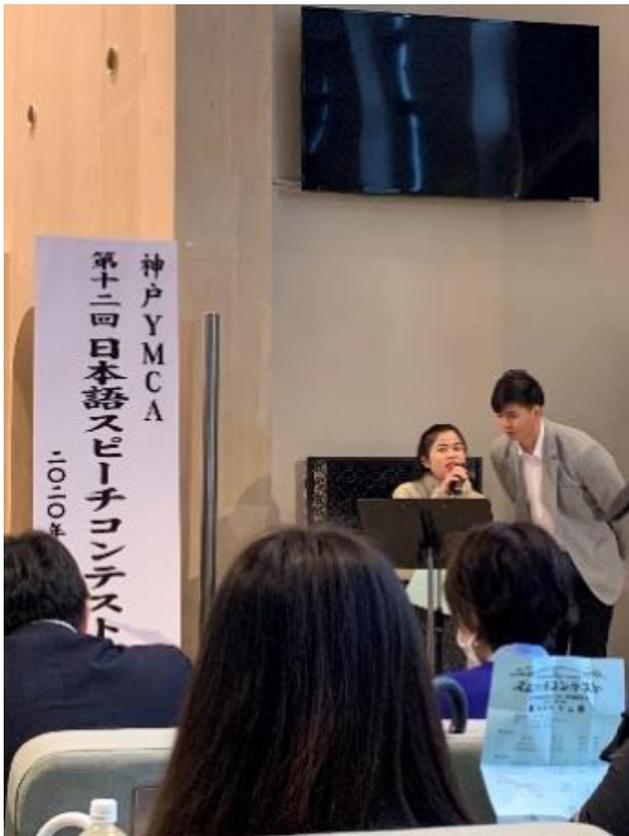
そのあと、ある日本人のお坊さんと会う機会があって、一期一会という言葉をお教えくださいました。一期一会というのは茶会に臨む際には、その機会は二度と繰り返されることがないという意味で、一生に一度の出会いを大切にすべきだという意味で使います。そういえば、今まで私は嫌な経験がありました。私は小学生の時、とても嫌な先生とクラスメートがいて、足大きな私はよくからかわれていました。大学に入ってから、親が都会での一人暮らしを心配し、私はお寺に住むことになったので、毎日管理され、学校に行く以外にはお寺を出ることはできませんでした。放課後、クラブ活動に熱中したり、友達とどこかで遊んだり、美味しい食べ物を一緒に食べに行ったりする仲間を見て、とてもうらやましく思いました。お寺で毎日野菜しか食べられないし、朝3時半起きだったし、5時まで経典を唱えなければならなかったからです。両親とお坊さんに毎日何回も不満を抱いて、そ



アルバイト人たちと店長さん 一緒にBBQやりました

んな日が大学を卒業するまで、何年間も続いていました。

日本人のお坊さんの話を聞いて、私は自分の考えが変わりました。その日本人のお坊さん



スピーチコンテストの司会やりました

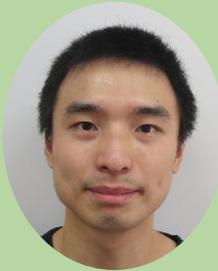
のおかげで、私はより日本語の勉強を頑張らないといけないと思い、店長の励まして、ホールの仕事が続けられ、自分の成長に良い経験だと思うようになりました。そして、小学生の時であれ、お寺に住んでいた時であれ、前から今まで出会った人はすべて自分の糧になると納得でき、無駄な出会いはないことに気がつきました。確かに、嫌な出会い、嫌な思い出はありましたが、その人たちと出会わなかったら、今の私にならなかったし、今となってはいい思い出になったと考えるようになりました。今となって、考えれば考えるほど、そのお客さんの言葉がなかったら、日本語の努力は精いっぱいではなかったでしょう。時々、なぜ、世界で何十億人もいるのに、あの人や、その人に出会ったのか、一言で言えば縁があったとしか思えません。そう思ったら、出会った人と意義がある毎日を送れるでしょう。

コロナ禍で毎日多くの方が命を落としています。こんな時からこそ、初めてで会う人だけではなく、前に出会った人でも、その時の出会いは一度きりなので、全ての出会いにおいて、その時しかない出会いを大事にしていきたいと思います。

今、緊急事態宣言なので、店が閉まっていますが、コロナの前は、時々お客さんから「フォンちゃん日本で頑張ってるな」という励ましなどの言葉に感動して、より頑張りたいくなりました。人生において、良い出会いもあれば、良くない出会いもありますが、自分の受け取り方によって、それに対する見方が変わるので。アルバイト活動を通して、自分が成長してきました。人と出会ったら、必ず、その人から何かもらえるはずです。無駄な出会いはないと私は信じています。



私の日本での旅行



名前：胡 徳贇
出身：中国
所属：神戸大学
工学研究科
博士課程前期課程
2年

私は中国の大学にいた時、現代建築史の授業を初め、日本建築家の丹下健三氏が設計された代々木国立競技場を見ました。半円を少しずらして向かい合わせたような形となり、全体が緩やかな曲線のシルエットをなし、この技術と美学を組み合わせた作品に惹かれ、日本の建築や建築家に興味を持つようになりました。そのきっかけで、日本語を勉強しながら大卒後、日本に留学することを決定しました。

[神戸]

2018年、全く知らない言葉も通じない国に来て、研究生として神戸大学に入学しました。その時、私は誰も知らず、日本での生活に慣れていなくて、やる気もなく、いつも帰国したいと思っていました。

しかし、研究室の先輩は私の不安を読めた、一緒に神戸ポートタワーに遊びに行くことを提案してくれました。神戸国際協力交流センターに発行されたはっぴいめもりーパスでタワーに無料で登頂したばかりで、神戸の華やかな夜景が初めて目に入りました。輝く光は海辺から山まで続いて行って、山頂にはまだ“KOBE”という文字の明かりがかすかに点滅していました。このような景色に衝撃を受けました。

ポートタワーは1963年に開業し、阪神大震災にも耐えて、まだ屹立していると先輩が教えてくれました。50年前の神戸市民がポートタワーに登り、海辺の忙しい港やふもとに急速建設されている都市を見ていると、どれだけ意気揚々としているのを想像できます。

その瞬間、私は自分がなぜ日本に留学しようと決心したのかを思い出したのは、日本の都市や建物を自分の目で見て、日本の文化的雰囲気を感じるためではないでしょうか。

その日から、神戸の生気と活力が好きになり、改めてやる気を出し、勉強に打ち込むようになりました。



神戸市夜景

[広島]

2020年、建築家の丹下健三氏への憧れを持って、友達と広島に足を運びまして、丹下さんが設計した広島平和記念公園や平和記念資料館を見学しました。

3月の広島は、高層ビルが林立し、川の水がゆっくりと流れ、空は真っ青で明るく、鳩はホイッスルの中で人々の頭上を飛んで、どこも平和な光景でした。しかし、ほとんどの壁が崩れ落ちた建物が、私をこの平和な景色から1945年8月6日の日に連れて戻ってきました。平和記念資料館の中で、被爆者の遺品や被爆資料が展示され、被爆前と被爆後の広島、広島に原爆が投下された経緯、核廃絶に向けた

広島市の取り組みなどを紹介されています。中学時代から核兵器の破壊力を学んでいたにもかかわらず、被爆後の黒い雨の資料を見て、私はその悲惨に驚きました。

重い気持ちで資料館を出て、原爆死没者慰霊碑の前に来ました。碑には「安らかに眠って下さい 過ちは繰り返しませぬから」という碑文が刻まれています。目を上げると、空はまだ青く、日本各地から来た小中学生が記念写真を撮っていて、私も心の中で世界平和を祈りました。



広島平和記念公園

【宇治】

2021年、初めて宇治に行きました。日本建築史の教科書により、宇治の世界文化遺産平等院やほかの古代建築が分かりました。コロナ禍が収まり、平安な時が来ることを願い祈っていました。

あの日、宇治駅を降りると、抹茶の匂いがあちこち溢れている。「こちらは宇治だ！」とかんじました。

都市に離れ、参道に並ぶ宇治抹茶、川沿いの自然を楽しみながら散策できるなど、周囲に落ち着く雰囲気を持つ場所があるので、まだ再訪したいと思いました。

日に輝く鳳凰堂が水面に映り、まるで浮かんでいるかのように、更に空に羽ばたいていくかのように見えます。また、中堂と左右対称の翼廊のバランスは10円玉の裏に描かれてい

る美しい姿を目のあたりにしたことが感動でした。壮大で豪華で極楽を思わせるような雰囲気が好きでした。



平等院鳳凰堂

日本に来てから3年間、すでに日本の多くのところを旅行したことがあり、美しい古代建築も見だし、精巧な現代建築も見ました。日本で建築を学ぶのは本当に幸せなことだと思います。

How I see Japan and Kobe?



名前： インガンペルワンサ
INGGANG PERWANGSA
ヌラルラム
NURALAM
出身： インドネシア
所属： 神戸大学
経営学研究科
博士課程後期
3年

Many people who have never lived in Japan may come to the conclusion based on the stereotype that Japan is a very strict and conservative country which would be difficult for foreigners to live here. And I feel that this view is not correct.

In 2019, when I first arrived in Japan, I was filled with wonder and excitement to start a new life. I did not speak Japanese at all and I did not know what was going to happen to my life, whether it would be interesting and fun, or not at all.

I believe, I came to the right place, When I started to realize that many people were helping me solve some administrative problems in Japan. It started with reporting at the university, registering at the ward office, opening a bank account, and calling gas and electricity for where I lived.

Adapting to life is not too big of a deal, while trying to deal with all the paperwork and procedures takes some getting used to, and I'm still struggling with it, but it's all fun nonetheless. I made new friends at school, other foreigners in my class, and when classes started, I made friends with exchange students and Japanese students.

Japan is a country that understands beauty.

Form, Function, Life. Beauty is everywhere in this country. The people are friendly, the nature here is amazing, the art is amazing, the architecture is intricate and detailed. Even the fruit is rendered in visual perfection, with an appetizing taste of juiciness. What I learned is that the Japanese crave beauty. And Japan is a nation that carries beauty in their hearts, mindsets and faces.

I would like to share some interesting aspects of beauty that I have seen in Japan. One example is public parks. I have never seen such a well-maintained, colorful, layered and multi-textured garden before. The longer I stay here, the more I realize that everything is done intentionally aesthetic. I am always amazed at the beauty of the building's interiors, the quality of everyday produce, and the well-maintained flower gardens outside the many town houses.

Once upon a time, KICC informed many activities that international students could participate in. The Kobe Foreigners Friendship Center (KFC) (神戸定住外国人支援センター) opened the opportunity to be a volunteer in the garden or beach cleaning and maintenance program in Kobe.



Cleaning activity at Maiko Beach.

I see that Japanese people like structure, order, and peace. I continue to be amazed by the intense level of detail, organization, teamwork, and structure that exists in every part of

Japanese people's lives. In all of this I see a desire to do things well, to work together in teams, and to maintain a community standard of living that puts the group above oneself. I think this is very beautiful and reminds me of the principles of service and selflessness.

In addition, the Design and Creative Center Kobe (デザイン・クリエイティブセンター神戸 - KIITO) opened an opportunity for International Kobe residents to try making Tatami mats directly from the experts. This event explained about how Tatami mat used for; what is the inside of Tatami; the difference traditional and modern Tatami; and many more.



Tatami mat materials.

Also, the Kobe Tourism Bureau (神戸観光局) invites International Kobe residents to follow and take a closer look at the procedure for serving tea, the philosophy in it, and learn the manners in the activity. From these activities, I saw an opportunity to get to know other people, make friends from other countries, and learn something new. This is something I am new to and feels good about.



Tea ceremony at Sorakuen Garden.

I am always grateful to live in Japan. Lots of help and care from friends and school; and it is fun. I realized that if we have the skills, abilities, and hard work, then we will get it. The more time I spent in this beautiful country, the more I began to see how kindness and honor dominate every charm of life. Everywhere I look in Japan, I see honor, respect, selflessness, and a heart of service.

These are some observations I made during my stay in Japan. I love this place. I purposely wrote this article from my point of view because it was meant to be.

時空のかけらを拾う旅人



名前：金 亜奇
出身：中国
所属：神戸大学
人文学研究科
博士課程後期
1年

神戸の夜になると、窓を開けたら、船の汽笛の音が港側より伝わり、部屋の中に入り込む。地勢の高いところに登れば、瀬戸内海は目の前に広がり、夜は明かりで、昼は太陽の反射で光る。寒くて乾燥した、際限ないくらい広い中国の東北平野に生まれた僕にとって、未曾有の体験はここで得られた。



遠方で光っている瀬戸内海・大阪湾

神戸に住むのが初めてではあるが、この街の物事を見るたびに、内心のどこかは懐かしく感じられる。

中学時代の僕は、よく地元の書店に通っていた。その時から村上春樹の小説の訳本を手にとって読んだりしていた。高校生になる前の夏休み、母に頼んで上海訳文出版の春樹の



メリケンパークから見た神戸港の夕暮れ

小説を全部購入した。その時の僕の愛読の作品は彼の早期の小説、『風の歌を聴け』や『1973年のピンボール』のようなものだった。小説の中に、鼠と名乗った少年が日暮らしの頃、防波堤のところに走って海を茫然と眺めたシーンは、同じ少年だった僕の心に深く烙印を押した。神戸に来て初めて住んだところは、兵庫県立神戸高等学校に近かったが、村上春樹を意識してここに来たわけではなく、全くの偶然で、僕はかつて読んでいた作家とここで再会した。ある日、メリケンパークに行くと海を見ると、十何年前に考えた、鼠はいったいどんな光景を眺めていたのか、ということが始めてわかった。わかるような気がした。

目線を海より山に向けたら、今度はまた別の記憶が蘇る。二〇一七年、僕が神戸に引っ越してきた初めての冬に、大雪がこの街に降ってきたが、普段なら神戸は雪が積もらない街だと言われた。その以来、確かに大雪が訪れる記憶はなかった。故郷の豪雪を懐かしく思い出す時もあるが、神戸にはまた違う雪が降る。

山麓から見上げると、一面の雲に覆われている山の上は、大雪と嵐で荒れているような



山上だけが豪雪

様子を見せているのに、山の下の街はいつもと変わらず穏やかで日差しを浴びている。そのような日光のなかに、時として雪がひらひらと舞い落ち、金砂がばらまかれたように。それがまた谷崎潤一郎の『細雪』の世界を思わせる。

作者と本の名前を挙げてきたが、それは自分の読書歴をひけらかしたいわけではなく、ただ僕は神戸に引っ越してきた前に、すでに文字で構築された「神戸」の住人となっていたことを言いたかった。それが故に何となく懐かしく感じられるのだろう。

日本の中世文学を専攻とした後、神戸との繋がりがさらに深まるようになったと感じられる。僕の指導教員、樋口大祐先生は、『平家物語』をはじめとする軍記物語を研究する学者で、一度日本の首都を神戸に移すことを図った（いわゆる「福原遷都」）平清盛を対象とする『変貌する清盛-『平家物語』を書きかえる』（吉川弘文館、二〇一一）という本の執筆者でもある。僕は華やかな生と死を遂げた平家一門の悲運を描写する『平家物語』の美文に惹きつけられ、神戸に来て樋口先生のもとで勉強と研究を始めた。その後、自分らしい

研究をしたいという思いで、色々模索して研究対象を変え続け、結局和歌史研究に落ち着いたが、紅の蝶の旗を掲げた平家一門が輝く瀬戸内海に入水する一幕は始終に僕の脳裏に去来している。

それだけではなく、源平合戦の古戦場であると同時に歌枕でもある生田の森、『伊勢物語』にも描かれている布引の滝、光源氏が流離した須磨の海岸、百人一首で「猪名の笹原風吹けばいでそよ人を忘れやはする」の有馬山…山、海、森と滝の中に、形のない思い思いが文学と化し、どことなくセンチメンタルな感性、時空を越えた錯乱を、僕のような旅人または住人に伝えているように思われる。

私の日本記憶



名前：湯 慧玲
出身：中国
所属：神戸大学
国際文化学研究科
修士課程
2年

私が初めて日本に来たのは 2015 年の夏でした。大学のサマープログラムをきっかけに福井大学に行きました。当時大学近くの「日の出」という旅館に二週間泊りました。古い旅館ですから、日本和屋ならではの木の匂いがしました。その匂いは今まではっきり記憶しています。それは日本の初印象だと思います。



2020 年秋の下鴨神社

第二回に日本に来たのは留学の 2018 年でした。神戸に到着した前に神戸牛しか知りませんでした。神戸に来たばかりの一週間において、毎日緊張していました。一人の自分は本

当に自立できるかどうか？大学院の勉強に慣れるかどうか？指導先生と仲良くなれるのか、色々について不安でした。良かったのは、全てが私の想像より順調でした。特に指導先生は非常に優しい先生で、研究でも生活でも私を大変助けてくださりました。大学院入学試験の準備をしたとき、毎週先生と相談し、過去問の文章を直してくれました。先生はいつも私を応援しています。今先生はもう他の大学に転籍したにしても、私たちはよく近況についてメールを送り合います。先生のおかげで、神戸と日本を思ったら、心暖かく感じています。

学校以外に、アルバイト先でもいろんな好



クリスマスのバイト先

意を寄せられました。家の近くにある 711 で二年間ぐらい働いています。接客の仕事なので、色々な人との出会いは面白いと思います。態度が悪い人ももちろんいますが、毎回変な客さんに怒られたとき、一緒に働く店員さんは私を庇ってくれました。

お店の常連客がいつも笑顔で私に「頑張ってるね、コロナに気をつけてね」と挨拶しました。相手から元気をもらって働き続けます。みんなはもともと見知らぬ人ですが、コンビニのおかげで繋がりがあって、このようなつながりが私を暖かくさせます。

最近、バイト先で面白いことがあって、皆さんにシェアしたいです。この間、オーナーが心配そうな顔で私に最近変なおじさんに会ったかどうか聞いてみました。会ったら必ず彼に教えてくださって言いました。なぜなら、オーナーが好きなサッカー選手がスコットランドに転籍して、そこで人種差別されました。コロナ時代において、外国人としての私もそういう目にあう可能性があるとしてオーナーはそう考えています。私は感動しています。

日本人の心遣いのほかに、日本自身も私を引きつけてくれます。二〇一九年の大晦日、友達と一緒に東京に行きました。新年の初詣で、浅草寺に行きました。コロナ時代の今と全く違います。多くの方は新年へのお祝いを抱いて浅草寺に集まりました。みんな笑ったり話したり生き生きしていました。初めて日本で新年を過ごした私も、すぐにこの環境に溶け込んで、幸せと希望を感じました。

二〇二〇年の夏休み、四国に旅行しに行きました。四国地方の美しい風景を満喫しました。父母ヶ浜の日の入り、高屋神社から見下ろす夜景、台風の日と晴れた後の小豆島、和風庭園の栗林公園、中国の江南地区とよく似ている倉敷の美観地区、香川県の本場のうどん、全部私の記憶にはっきり覚えています。



2021年春 夙川の桜



2021年夏の白良浜

私は海が大好きです。日本はちょうど海を見たいという願いを満たしてくれます。今年は淡路島と和歌山の白浜に行きました！私は白浜の美しさに一目惚れしました。真っ青な海と、真っ白な砂との絶妙な付け合わせは、まるで絵の中にいるかのようです。こういう風景の中にいて、自分も海の一部になりそうです。

今年は日本にいる3年目です。日本（神戸）はまるで私の「第二故郷」みたいな存在だと思っています。ここで、すごく楽しい時間を過ごしました。卒業して中国に帰しても、日本で生活も私の一生の宝だと信じています。

「神戸人」になるために； 神戸で出会った人々を想って



名前：THAI THI HA GIANG
出身：ベトナム
所属：日本経済大学
経済学部
3年

私は5年前にベトナムのゲアン省から家族を離れて一人で日本に来ました。海外に行くことは初めてでした。初めての海外、初めての日本、初めての神戸、今、思うと当時の私は明確に、日本も神戸も認識していなかったかもしれません。ベトナムから出たことがな



初めて浴衣を着ました

かった私は、ウチ（地元）とソト（地元以外）しか違いが分からなかったのです。とても寂しくて毎日泣きたいくらいでした。ソトに出てしまった私は、当然、友達もいなく、日本語も挨拶程度しかできませんでしたので、私はとても困っていました。

そんな私を包み込んでくれたのは神戸の人との出会いでした。私が入学した日本語学校「神戸外語教育学院」は神戸市長田区にありました。そして、私は学校に徒歩で通える兵庫区のアパートに住み、長田区のコンビニ「ファミリーマート」でバイトを始めました。

コンビニの店長夫婦は、とても優しい人でした。仕事だけではなく、何も分からない私に日本語、日本の習慣、を一から教えてくれました。高熱が出た時、心配してくれて一緒に地元の病院にまで連れてくれました。春はお花見に連れていってくれ、家族のように接してくれました。そして、長田区と兵庫区は、私にとって第二の地元（ウチ）のように思えるようになってきました。

毎日買い物に行く地元のスーパーのジョイエールのレジのおばさんとは皆、友達になりました。おばさんたちは、私に笑顔で、「今日はこれが安いよ」と特売品を教えてくれました。必要もないモノもついつい買ってしまいます。お気に入りのヘアサロン「フローレア」のスタイリストのAさんは、毎回「お任せでお願いします」と言うと、完璧に同じ髪型にしてくれます。

近所に「コップンカフェ」という喫茶店があります。日本人の店長は、東南アジアにとっても興味があり、お店のメニューにもタイやインドネシア料理があります。私が立ち寄ると店長さんとママさんは、「元気にしてる？」「勉強忙しい？」最近「コロナ気をつけて

よ」声をかけてくれます。この店のお客さん
はご高齢の方が多いです。私は、常連のおじ
いさん、おばあさんたちと、とても仲良くな
りました。引っ越した時には、皆さんの家に
あまった家具、私が見えるモノなど私のアパ
ートまで届けしてくれたのです。この店が大
好きで、私はバイトをすることしました。お
客さんの 4 歳の男の子のお子さんから「おし
ごと、がんばって」というラブレターを頂き
ました。



喫茶店の店長さん

2019 年 3 月に日本語学校を卒業し、神戸市
中央区にある日本経済大学神戸三宮キャン
パスに進学しました。私の活動範囲は、中央
区まで延長され、中央区の焼肉店でアルバ
イトを始めました。ここでアルバイトをして
いる神戸大学の学生と親友になりました。大
学の課題を手伝ってくれたり、私に正しい
丁寧な日本語を教えてくれました。

上記の人以外にも、神戸に来てから、私は
たくさんの人々に会い、多くの人と接して
守られてきました。

「神戸は人の中にある」というのが、神戸
のキャッチフレーズですが、まさにその通り
だと思います。ベトナムの地元から出たこ
とがなかった私は、神戸で様々な人に出会
って「神戸人」になったのです。

この数年、日本で働くベトナム人実習生が
容疑者とされる事件が相次いでいます。私は
同じ国出身の若者が、私が大好きな日本で
犯罪者になっていくことに心を痛めます。私
にはベトナム実習生が最初から犯罪者であ
ったとは思えません。彼らの日本語の能力
不足なども結果、地域のコミュニティに溶
け込めないことが、彼らの孤立にさせ、
犯罪に走らせる主要因になっているように
見えます。もしそうなら、実習生の地域
意識を高めることで犯罪率が下がるの
ではないでしょうか。私は、この仮説を基
に神戸の実習生を例にして彼らの神戸
意識を高めることで、どのように神戸
の実習生の生活が変わるのかを研究し
たいのです。

私の経験から孤立している外国人はロー
カルな出会いがないことが問題であると思
います。彼らは、私が出会ったコンビニの
店長夫婦や喫茶店の店長を知らないのだ
です。私は、孤立している外国人に、私
が出会ったような人々を紹介したいと思
っています。

「神戸は人の中にある」のです。私は、
孤立している外国人を神戸の人々の中に
誘うことを志したいと願っています。



バイト先で出来たお友達

Muslin

Resurrection of a lost heritage



名前：モハンマドジャヒドゥル
MOHAMMAD ZAHIDUL

イスラム
ISLAM

出身：バングラデシュ

所属：神戸情報大学院大学

情報技術研究科

修士課程

2年

The famous Muslin of Dhaka is a lost cultural heritage that now only exists in legends and museums. Muslin is a handwoven cotton fabric produced in ancient eastern India, now Bangladesh and West Bengal of India. Notably, Muslin, made in Dhaka, now the capital of Bangladesh, was most famous for its fineness and quality. The fabric was so fine that easy to see through. It was so thin that a muslin saree, an unstitched drape for women varying from 4.5 to 6 meters in length, can be put in a matchbox or pass through a finger-ring. The Bengal wavers have been producing Muslin for thousands of years which enjoyed its most famed time under the rule of the Mughal empire and was completely lost under the British colonial rule over a century ago. Recently, Bangladesh has been trying to reinvent its forgotten art of Muslin to restore its lost cultural pride.

European traders first encountered this fine cloth in Mosul of now Iraq. Although Europeans gave the muslin name from their procurement place Mosul, it was originated in Dhaka. In the 9th century, an Arab merchant named Sulayman al-Tajir noted the origin of the fabric (Arabic Ruhmi) in Bengal. In ancient times, Bengal muslin was imported to Rome under the name "textalis-ventalis"---'woven air'. About 450 BC, Herodotus testified that in Inde "wild trees bore fleece as their fruit, out of which the Indians made their clothes." The depiction of Muslin is frequently found in the 2nd century BC in chandraketugrah terracotta figurines from west Bengal. In the 5th century, Sigiriya paintings depicted royal females wearing fine see-through cloth believed to be Muslin. In the 13th century, Famous

explorer Ibn Battuta visited Dhaka and got amused by seeing the Muslin production and noted that a better fabric could not be found in the whole world. In the 15th century, a Chinese explorer named Ma Huan mentioned that the Muslin from Bengal was highly-priced in China. Though the textile industry of Bengal is very old, the



1-A woman in fine Bengali muslin, by Francesco Renaldi (c. 1789) Yale Center for British Art, Paul Mellon Collection

muslin industry flourished and became famous under the patronage of the Mughal empire, particularly after establishing Dhaka as the capital of the empire. A huge quantity of muslin garments used to be procured for the use of emperors, governors, high officials, and novels. The locals and foreign traders from Arabia, Iran, Armenia, china Malaya, java were active in Dhaka to buy muslin Dhaka with cash in hand. The European trading settlements began to establish in India in the 17th century by Dutch, Portuguese, English, and French. European Marchant found Dhaka Muslin loved by

2-Dhaka muslin was a favorite of Joséphine Bonaparte, the first wife of Napoleon (photo public domain)



European aristocrats and highly profitable.

The cotton count is the measure of the fineness of the fabric, which we can get by dividing the weight of 1000 meters of yarn. For example, if 1000 meters of yarn weighs 2 grams, its cotton count is 500. The Present-day jamdani saree of Dhaka is made of 50 to 80 count cotton yarn. The Muslin is used to be made starting from 250 to 1200 cotton count. Not every cotton breed could be used for spinning such delicate yarn. The best quality Muslin was made of a very special breed of cotton locally named "phutti Karpas" and scientific named Gossypium Arboreum Var Neglecta. The cotton plant would grow only on the banks of the rivers Brahmaputra, Meghna, and Shitalkshay in Bangladesh. The cotton was unique in structure and maintained tensile strength at

counts higher than any other cotton. It would shrink and become stronger when soaked in river water instead of swelling and dissolving. The other kinds of cotton produced in neighboring areas used to manufacture slightly inferior and coarse clothes. The manufacturing required a cool and high humid environment. Spinning or weaving was done, mostly, at dawn or night and sometimes on a boat in the river. Perhaps legends of mermaids making Muslin evolved from the singing voice of the wavers heard from the nearby boats. From making yarn to actual waving, manufacturing was a family trade passed from generation to generation. Different types of Muslins had designated names based on the fineness of texture or the uses, e.g., Malmal (the finest sort), Jhuna (used by native dancers), Rang (of transparent and net-like texture), Abirawan (fancifully compared with running water), Doorea (striped), Charkona (chequered cloth), Jamdanee (figured cloth).

Once a culture, tradition, and pride artisan of Bengal become extinct during British colonial rule in India. Muslin was a costly fabric used by elites of the Mughal empire and local rulers. The fall of Mughal and local rulers also removed the patronizers. The British East India company ruler started various new policies and rules regarding manufacturing processes and forced them to work for very lower wages. Besides, the British wanted to create new markets for their machine-made textiles. They set 70-80% tax on the locally produced cloth whereas only 2%-3% tax for made in Britain cloths. They also started to produce a fake muslin-like cloth with power loom in Britain. It was said that the British chopped off the thumbs of spinners and weavers, but the historical credibility of the claim is not that strong. The waver forced to chopped off their own thumbs to avoid inhuman forced labor in significantly lower wages. On the other hand, cotton farming also became less profitable due to wavers' loss. During that time, the British forced local farmers to produce Indigo crops to supply raw materials for the textile industry in Britain. As a result, this treasured art of waving became extinct, including the cotton plant phutti karpash.

In the last decade, some private and a government

teams started researching to reinvent this forgotten trade. The first challenge was finding the phutti karpash plant, which farmers have not grown for centuries. Moreover, Nobody knows exactly which is that phutti karpash plant but some descriptions in some texts. The government team tried to find the plant in the wild by advertising it in news media. They found some responses from the crowd close to the description. They collected samples of Muslin from the British royal museum and matched the DNA sequence of the sample with the plant. Fortunately, they found one plant that matches close to the sampled fabric. As no spinners know how to spin such fine yarn, they started a competition among the traditional hand spinner to spin more high-count yarns. It took them two years to find out the process of spinning. They found that women with soft fingers can spin better, but their high concentration and reflex are the keys. Finally, they made a muslin saree again, overcoming many difficulties during work and reinventing many processes.

Muslin production is an extensive process that requires



3-Discovering phutti karpash in the wild(photo public domain)Center for British Art, Paul Mellon Collection

spinners and weaver's skill and time. Therefore mass-producing Muslin understandably be a bit difficult, and increasing costs as it was in the past. The original Muslin used to be a premium product, and the revived Muslin would most likely be so. The fine quality muslin was made of 800-1200 cotton count yarn which is still some distance to achieve. The recent success of reproducing Muslin is the first step for reviving a lost heritage and national prestige.

Sources: <https://www.thedailystar.net/lifestyle/special-feature/the-muslin-story-187216>
<https://thefrontierpost.com/dhaka-muslin-the-200-years-old-fabric-that-no-one-knows-how-to-make/>
<https://www.smithsonianmag.com/smart-news/researchers-work-revive-beloved-dhaka-muslin-fabric-180977339/>
<https://www.tbsnews.net/feature/panorama/what-does-muslin-revival-mean-bangladesh-220723>
<https://edtimes.in/dhaka-muslin-the-lost-ancient-fabric-that-no-one-knows-how-to-make-anymore/>
<https://www.aramcworld.com/Articles/May-2016/Our-Story-of-Dhaka-Muslin>

中国の火鍋と 日本のしゃぶしゃぶ



名前：崔 夢影
 出身：中国
 所属：神戸大学
 国際文化学研究所
 修士課程
 1年

中国では「民は食を以て天と為す」ということわざがあります。今日は中国の食文化の一つである火鍋を中心に紹介させていただきます。

「一番好きな料理はなに？」と聞かれたら、私はなんの躊躇もなく火鍋だと答えます。なぜなら、火鍋には様々な味のスープがあり、あらゆる食材を異なる味で味わえるからです。スープには麻辣スープ、海鮮スープ、トマトスープ、豚骨スープなどいろいろなものがあります。海老などの海鮮が好きな人は海鮮を、白菜などの野菜が好きな人は野菜を、牛肉などのお肉が好きな人はお肉を、なんでも入れることができます。

火鍋には長い歴史があります。火鍋は唐代に普及し、元の時代の軍中の食事や明代や清の時代には羊肉が具材に見られ、清朝の乾隆帝の時代には、火鍋は満漢全席で最高潮に達しました。今でも全国で広く愛されている料理の一つとして知られ、世界各地の中華街や、火鍋専門店などの中華料理店においても提供されています。火鍋は日本において「中国のしゃぶしゃぶ」と呼ばれることもありますが、むしろ北京の火鍋の一つ「羊のしゃぶしゃぶ（中国語：涮羊肉）」が京都に伝来し、日本の「しゃぶしゃぶ」のルーツになったともいわれています。

火鍋は各年齢層の人々に愛されています。私は2019年5月に神戸に来ましたが、日本にくる前に、友達との外食であれば、多くの場合は火鍋を食べます。2019年12月、久しぶりに火鍋が食べたくなり、友達と三宮の近くにある火鍋屋さんに行きました。店内では中国語で話している人が多く、店員さんも中国人が多かったです。ちょうど隣のテーブルのお客様が日本人で、「なにここ、日本じゃないみたい」、「そうだね。中国にでも来たかって感じだよ」という声が隣から聞こえました。確かに、私も中国に帰ったような感じで、一瞬の慰めともなりました。その時の気持ちは今でも忘れられません。中国では、昔一緒に



沖縄で食べたしゃぶしゃぶ



上海で食べた北京老火鍋。

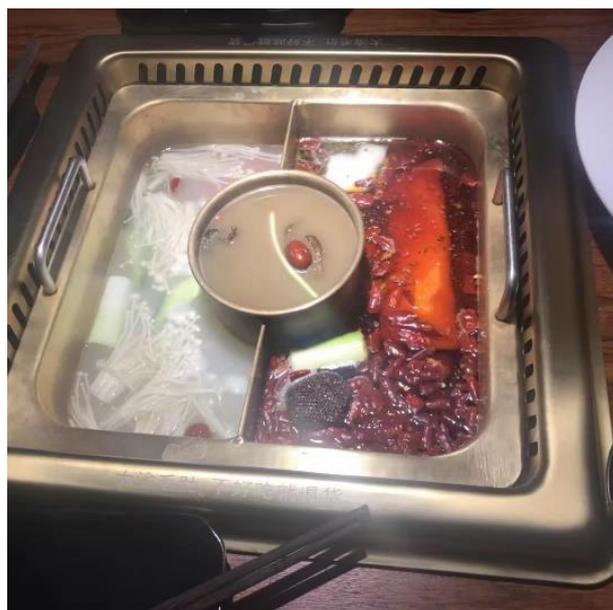
火鍋を食べる全員が自分の箸で料理を取っていたのですが、最近の若者の間で、取り箸と取りスプーンを使うことが始まりました。

日本のしゃぶしゃぶは子供から大人まで人気のある鍋料理です。しゃぶしゃぶは水から作ることもできますし、だし汁を使うこともできます。具材を切り、煮込むだけの手軽な鍋料理であるため、家庭で作る機会も多いです。日本のしゃぶしゃぶの定番の野菜といえば、白菜や白ネギ、人参やしいたけなどが挙げられます。白菜は味が染みやすくクセがないため鍋料理によく使用されます。白ネギと人参は色味が綺麗なだけでなく素材の甘みが楽しめるため、しゃぶしゃぶを食べる時の人気の食材です。しいたけはおいしいだけでなく、入れることでだしが出るのでしゃぶしゃぶにとってもよく使われています。スーパーに行けば、しゃぶしゃぶ専用のお肉も置いてあり、とても便利です。

中国の火鍋に「火鍋の素」を水に入れて簡単に作る事ができるものがあります。また、豚骨や鶏ガラから煮込んでそのスープで火鍋

を作ることもできます。家庭で作る火鍋はスープ種類または二種類が普通です。二種類のスープで火鍋を食べる場合、「二色鍋」という専用の鍋が必要となります。このような火鍋を食べる場合、ソースがあってもなくても美味しく食べられます。北京では、「北京老火鍋」または「北京涮羊肉」と呼ばれる火鍋があり、銅で作られた特別な鍋が使われており、スープは水だけを使うのが特徴です。「北京老火鍋」の場合、ソースが味の決め手となります。お正月に一家団欒し、家族みんなでダイニングテーブルを囲んで熱々の火鍋を食べるのが何より幸せなことだと思います。

中国の火鍋や日本のしゃぶしゃぶは使う鍋や作り方が異なるかもしれませんが、様々な食材を入れることで、美味しく食べられるのが共通です。この世界も火鍋やしゃぶしゃぶと同じ、様々な要素があるからこそ、魅力的で美しい世界でいられます。異なる国や地域からの人々とコミュニケーションし、理解や友情を深め、美しい社会を作っていきましょう。いつかみんなで一緒に火鍋を食べに行きましょう。



二色火鍋

ベトナムの 結婚式文化について



名前： グエン ヴァン ナム NGUYEN VAN NAM
 出身： ベトナム
 所属： 日本経済大学
 経済学部
 4年

ベトナムの伝統的な結婚式の流れは最初、レー ジャーン ゴー、次は婚約式（レー ディン ホン）、最後は結婚式（ダン クオイ）になります。流れを詳しく説明いたします。

まず、レー ジャーン ゴーというのは二つの家族の親戚関係を認め合う式です。この式は二人の親族の初めて出合いです。花婿の家族は結婚を決める前に、花嫁の家に行って、二人がもっとよく知り合うように正式に依頼したいと考えます。このセレモニーでは、特別な申し出がなければ、仲人の任命の役割とマ

ッチメイキングで愛に落ちる人には必要ありません。この儀式は高価ではありませんが、提供はビンロウの実のみです。国の文化的アイデンティティ（ビンロウの文化）を示しています。

下の写真は祖父母、両親、叔母、叔父などの花婿の親戚を代表する長老たちが花嫁の家にやって来て、花嫁の家族に挨拶し、親戚を紹介します。人々が顔を知り、より友好的になるのが目的です。お茶やお酒を飲んだり話したりします。

続いてレー ジャーン ゴーの後は婚約式を実施します。

婚約式はベトナム人の伝統的な結婚習慣の儀式です。これは2つの家族間の婚約の公式発表です。これは結婚関係の重要な階段です。女性は男性の「婚約者」になり、男性は女性の家に贈り物を持ってきた後、花嫁の義理の息子として受け入れられることを正式に求めました。

婚約式では新郎の家族が花嫁の家にプレゼントを持ってきます。花嫁の家族は結婚式を受け取ります。つまり、娘と男性の家族の結婚を公式に認めます。婚約の日から、カップルは婚約者とみなすことができ、結婚式の日がそれを発表するのを待つだけです。



下の写真を見ると、皆さんが着ているのはベトナムの伝統的な服装です。アオザイといいますが、アオザイはいろいろな色や形がありますが、その中で結婚式に使われる赤いアオザイを着ているのが花婿さんと花嫁さんです。花婿さんの方はアオザイを着ている若い者たちが贈り物を持ち、花嫁さんの家に行き、花嫁さんの方に贈り物をします。女性の家族はプレゼントをもらい終わったら、婚約式が終わります。花嫁さんが同意するというわけです。もちろんこれは婚約式の形式です。同意するのはレージャーングーの時です。この習



慣は昔から伝えられました。今までも皆さんがそれを守って続けています。

最後は結婚式を行います。

結婚式は夫婦の結婚の受け入れおよびは家族、社会的または宗教的受け入れを広く発表することを目的とした結婚の文化的習慣です。結婚式は式典として理解され、結婚式になるために結婚披露宴と組み合わせられることがよくあります。

婚約をしてから両方の家族が良い結婚日を選んで決めます。別の日に結婚式を行います。結婚日までいろいろ準備しなければなりません。例えば、結婚の招待状を配るため、女性の親戚、友達、近所さんなどの名前リストを書きます。そして、花婿にも同じことをします。なぜかというとなベトナムの結婚式は決められた結婚日に両方の家族が同時に行われまからずです。親戚と友達または近所さんにも別々な方だから、別に行わないといけません。みんなに知らせますからです。今の書いていた名簿が自分で保管し、自分の結婚式に参加した方に後でその人たちの結婚式に返さないといけない。もちろんこれは義務ではなく、自由です。人々の考えによって違います。結婚式は大きな式場で行い、親戚と友達、近所さんの数量によって時間を分けてパーティーに参加してもらいます。ベトナムの結婚式は今の最低人数が150人かもしれません。普段の人々に対して最大は500人だと思います。パーティーに花婿さんと花嫁さんが一つのグループずつを回って祝い言葉をもらい、逆に感謝言葉を言います。結婚式に花嫁さんの家から花婿さんの家に花嫁の行列を行います。



ドイツの秋の祭りと冬の祭り



名前：^{バッハ パトリック}BACH PATRICK
 出身：ドイツ
 所属：神戸大学
 工学研究科
 博士課程後期
 2年

はじめに、私の自己紹介をしたいと思います。私はドイツのテューリンゲン州アイクスフェルト郡ヴェーンデ市、小さな村に生まれました。私は日本に2年以上住んでいます。この2年間で、私は日本語と日本文化について多くを学ぶことができました。この2年間で、さまざまな国からたくさんの新しい友達を作ることでもできました。日本に住んで以来、面白いことをたくさん経験し、いつもとても楽しかったです。私が最初に気付いた大きな違いは、日本ではスーパーマーケットやショッピングモールなどのすべての店が日曜日にも営業しているということでした。ドイツでこの店は日曜日にいつも休業です。だから、週末に日本で買い物に行くほうがずっと便利だと思います。

ドイツには、日本にはないさまざまなフェスティバルと祭りがあります。例えば11月11日に聖マルティヌスの日があります。この日に子供たちはランタンに火をともし、自分が住む町の市長は変装して、聖マルティヌスのコスチュームを着ます。町の市長は教会に案内し、子供たちがその見返りとしてお菓子をもらう。また、途中で家々の住む人を祝福の言葉を述べ、その家の人々が、菓子を与える。この日もガチョウを食べる日です。ガチョウ

の作ることが、脂の乗ったガチョウをローストして、ジャガイモのダンプリングと紫キャベツを付け合わせる。ガチョウを食べる理由はかつて聖マルティヌスがトゥールの司教を依頼されたもの、しかし、聖マルティヌスはそれをしたくありませんでした。使いに見つからないように聖マルティヌスはガチョウ小屋に隠れていたのを、ガチョウが騒ぎ立てたために見つかってしまい。結局司教に就任せざるを得なくなったため、ガチョウを食べるようになったという物語がある。



聖マルティヌスの日

(出典: <https://bistummainz.de/portal/nachrichten/blog/Oeffentlichkeitsarbeit-fuers-Teilen/>)

秋に以外の世界中の有名なフェスティバルもあります。このフェスティバルはオクトーバーフェストです。このフェスティバルは毎年の9月半ばから10月上旬までにあります、いつも16日間です。バイエルン州の州都ミュンヘンで開催される世界最大規模の祭りである。コロナの前、毎年約600万人はオクトーバーフェストにきました。1810年から2019年まで毎年テレジエンヴィーゼで開催されていました。オクトーバーフェストでみんながバイエルン州の祭り服を来ます。テレジエンヴィーゼのニックネームはヴィーズン(Wiesn)です、皆がこのニックネームを使用します。オクトーバーフェストでもゲームをしたり、女性がダイヤモンドを着たり男性はゼナーハットやレーダーホーゼンを着たり、よくビールを飲んだり、ドイツの南の方の名物料理を食べた

り、ドイツの南の方のパンとお菓子を食べます。オクトーバーフェストのビールはフェストビアやヴィーゼンビアと呼ばれている。5.8～6.4%のアルコール度で醸造されている。例えばアイスバインとかヴァイスヴルストとかローストチキンとかプレッツェルとかカイザーシュマーレンとか等しいを食べます。オクトーバーフェストの入場は無料です。飲み物と食べ物を買う時や遊具に乗る時に値段を支払う。フェスティバルで色々な遊園地アトラクションがあります。例えばお化け屋敷とか食べ物屋とか覧車とか等しいです。祭りの中心はビールテント（Bierzelt ビアツェルト）です。ビールテントの中にビールや食べ物を出す。



オクトーバーフェスト

(出典: <https://de.wikipedia.org/wiki/Datei:Oktoberfest1.jpg>)

冬には有名な祭りもあります。この祭りはクリスマスマーケットです。ドイツのすべての町にはクリスマスマーケットがあります。ドイツ語ではヴァイナハツ・マルクト（Weihnachtsmarkt）が用いられる。通常、クリスマスマーケットは、早ければ11月末に始まり、クリスマスの数日後に終わります。クリスマスマーケットは毎日開いているので、人々はしばしばクリスマスマーケットに行きます。みんなはいつも友達か家族と一緒にいきます。クリスマスマーケットでは、クリスマスの食物を食べたり、クリスマスドリンクを飲んだり、クリスマスアイテムを買ったりしています。クリスマスの食物は例えばシュトーレンとかジンジャーブレッドとかワッフルとかカッセラーとか等しいです。クリスマスドリンクは例えば火のトングパンチとかグリューワインとか等しいです。ドイツでは、12月の寒い日には-10度まで下がる可能性があります。それで、ドイツの冬は日本の冬よりも寒いので、温かい食事や飲み物が特に人気があります。クリスマスマーケットも色々な遊園地アトラクションがあります。例えばメリーゴーランドや観覧車です。クリスマスマーケットの時に夜は長いので、アトラクションの華やかなライトアップがほどこされる。



エアフルトのクリスマスマーケット

(出典: <https://weihnachtsmarkt.erfurt.de/wm/de/service/aktuelles/meldungen/2020/137365.html>)

Welcome to Tanzania



名前： JACKSON HERIEL
ジャクソン ヘリエル
マカンゲ
MAKANGE
出身： タンザニア
所属： 神戸情報大学院大学
情報技術研究科
修士課程
2年

Tanzania is the largest country in East Africa with a total area of 947,303 km² and an estimated population of 56,313,438 by 2018. It is bordered by Uganda in the north, Kenya northeast Rwanda, Burundi, Congo in the west, and Zambia Malawi, Mozambique in the south. It is advantageously located in the African Great Lakes and has the largest part of the lift valley.

Tanzania has 120 languages spoken by different tribes, but the Swahili language being the national language spoken by most people.

Tanzania has plenty of natural resources across the country minerals gold, iron ore, nickel, copper, cobalt, silver, diamond, tin, ruby, garnet, limestone, soda ash, gypsum, salt, phosphate, coal, gravel, graphite, uranium, and natural gas and Tanzanite being the one only mined in Tanzania.

Tanzania also is the mother of tourism destinations in the Africa continent with numerous national parks, conservation areas, and game reserves being the biggest adventure for tourists around the world.

The following are lists of beautiful destinations in Tanzania highly visited every year. Below are some of the five national parks highly rated in the country.

Mount Kilimanjaro

Mount Kilimanjaro is the African Highest mountain and one of the main archipelagos of the continent.



Mount Kilimanjaro credit:gotripjs

It is 5896 meters above sea level located in the Kilimanjaro region of north-eastern Tanzania near the border with neighboring Kenya. you have three main peaks and they are Kibo, Mawenzi, and Shira. Mount Kilimanjaro is located in the Mount Kilimanjaro National Park and has been visited by many tourists around the world for its unique appearance.

It's part of Kilimanjaro National Park and is a major climbing destination. Because of its shrinking glaciers and icefields. About 50,000 tourists will climb Mount Kilimanjaro in 2019.

Serengeti National Park

The Serengeti National Park in Tanzania is the first biggest park in the region established in 1952. It is famous for the great migration of wildebeest and zebra. A large number of cheetahs, lions, giraffes, elephants, impala, and birds living in the park is one of the most interesting parts.

The park occupies 5,700 square miles with all the wild animals and birds in it. Several accommodations are available which include lodges and small camps for visitors.



Serengeti National parks Zebra and Wildebeest migration pictures credit: serengetinationalparksafaris

One of the famous events that happen in October and November every year in the park is the migration of about a million wildebeest and zebras from northern hills to southern plains in short rains and then moves back in April, May, and June through west during long rains.

The Wildebeests travel through a variety of parks, reserves, and protected areas, and a variety of habitats. Visiting the park you will explore the different forms of vegetation and landscapes of the park.

Ngorongoro Conservation Area Authority

The Ngorongoro Crater is one of Africa's most famous sites and is said to have the highest density of wildlife in Africa. It's was listed as the 'eighth wonder of the world',

The Crater is the world's world's largest inactive, unbroken and unfilled volcanic caldera. It has formed a spectacular bowl shape of about 265 square kilometers area, with sides up to 600 meters deep; it is home to the largest number of wildlife in the world of approximately 30,000 animals at any one time.

The floor of the crater has several different habitats that include forest, swamps, grassland, and Lake Makat with soda. The beauty of these environments attracts wildlife to graze, wallow, and drink.

The Ngorongoro crater is the home of the Africa big 5: black Rhinos, Elephants, Lions, Buffalos, and Leopards. It is a highly visited park among all due to the uniqueness of its view and the large variety of wildlife in the conservation concentrated in one area.



Ngorongoro Conservation Area credit: *Tanzania Tourist board*

Lake Manyara National Park

It is located on the Edge of Rift Valley beneath the cliff of the Manyara Escarpment. its size is 330 sq km where about 200sq km is the lake when water is at

the highest level.

The park is full of groundwater forests, bush plains, and baobab-strewn cliffs. Also has the hot springs, rich in wildlife and incredible numbers of birds.

Lake Manyara is greatly known for the tree climbing lions as the incredible attraction to most visitors to this park. In addition to that this park is the home of a large number of baboons and other big families of primates which attract most tourists interested in viewing the park.



Lake Manyara National Parks credit: *labafrika*

Mikumi National Parks

Mikumi is the fourth largest national park in Tanzania which was established in 1964. It occupies an area of 3,230 sq kilometers. It is located 283 km west of Dar es Salaam city, between the Uluguru Mountains and the Lumango range.

In open horizons and large wildlife of the Mkata Floodplain has a wide variety of wildlife such as elephant, giraffe, buffalo, zebra, sable, hartebeest, lion, leopard, spotted hyena, impala, and jackal. In addition to that about 400 bird species have was recorded such as the yellow-throated, longclaw, and bateleur eagle



Mikumi National Parks credit: *Tanzania tourist Board*

You are welcome to the beautiful land to explore and enjoy nature and wildlife. The above are some of the lists of the beautiful destinations you should think of visiting next time you visit Tanzania.

ベトナムの「ダナン」 最先端リゾート地



名前： グエン ヴァン デュン
NGUYEN VAN DUNG
出身： ベトナム
所属： 関西国際大学
現代社会学部
4年

皆さん、こんにちは。「皆さんはベトナムの観光地といえばどこですか」とききますと、ほとんど「ハノイ」と「ホーチミン市」という答えがよくありましたが、近年では最も注目されるベトナムの新「人気観光地あるいはリゾート地」はダナンです。今回はベトナムのダナンをご紹介します。



ベトナムにあるダナンはハノイ、ホーチミンに続きます。近年では最も新しいリゾートホテルができ、人気の集まるリゾートです。ダナンには世界に誇れるほど美しい「ミーケビーチ」というビーチがあります。ヤシの木が立ち並ぶ白い砂浜は、思い描くベトナムビーチです。パラセーリングやバナナボート、サー

フィンなど、ビーチアクティビティも充実しており、海水浴にも最適ではないでしょうか。アクティビティ派も満足できるビーチです。少し疲れたら葎葎き屋根の parasol の下で寝転がって、冷たいドリンクで喉を潤す、なんて過ごし方もおすすめです。ミーケビーチ沿いには遊歩道も整備されており、早朝や夕暮れ時は心地よい潮風を感じながら散歩もおすすめです。海岸線沿いにレストランやカフェ・バーも建ち並び、夜遅くまで盛り上がっています。新鮮な海の幸を使用したレストランも多く、海を眺めながらシーフードを満喫するのもミーケビーチの楽しみ方の一つです。ビーチ沿いにリゾートホテル、レストランなどが並び、夜になるとイベント、BBQ などが行いますので海を見ながら色々楽しめます。



山の方に行きますと、バーナーヒルズ があります。バーナーヒルズ はダナン市内から車で40分ほど、19世紀末にダナン在住のフランス人たちが避暑地として使っていた地を再開発したテーマパークです。全長 5771km、高度差 1368m のロープウェイからは、ダナンの風景を楽しみながら乗ることができます。世界でも話題になった“神の手”に架かっている「ゴールデンブリッジ」はこちらのバーナーヒルズにあるものです。施設内、ロープウェイの乗換地点となります。天気の良い日は橋の上からダナン市街を一望できます。山



頂のロープウェイ終点地点には屋内施設と屋外施設があります。屋外施設は建物も景観も中世ヨーロッパをイメージした造りで、石畳の道に洋館…と、何だかベトナムじゃないところにいるような気分になります。時間帯によってはダンスやマジックショーなども行なわれます。また、二人乗りのカートで山へ登ったり下ったりを楽しむといったようなアトラクションは子供からも人気です。屋内施設にはお化け屋敷やフリーフォール、無料のゲームセンターがあります。施設内には 30 店舗の飲食店があり、ベトナム料理からファストフードまで楽しめます。ビールなどのアルコールもありますよ。迫力のある景観からベトナム色が濃い楽しみ方まで、さまざまな魅力が心に残るテーマパークです。

そして、せっかくダナンに来ましたから、ダナン料理を食べないともったいないと思います。ダナン料理といえばミー



クワンです。ダナンとお隣のクワンナム省の名産とされ、ダナンでは「フォーよりミークワン派」が圧倒的多数です。ミークワンは平らな麺、肉や魚介、トマトを煮込んだ汁が少量入ったぶっかけです。一緒にパリパリの煎餅と山盛りの香草類が出されるので試しに合わせてみると、コッテリ系のスープが香草のおかげでさっぱりした味です。そして、バインセオも人気がたくさんあります。薄い米粉を焼いたものの中にもやしや少量のひき肉、エビ、野菜などが入っている食べ物です。タレ（あるいは甘辛ナンプラー）につけてそのまま食べ、ライスペーパーに野菜とこのバインセオと一緒にに入れて食べられる料理で、日本人の口に合う料理だと思います。これ以外はもちろん美味しいベトナム料理もダナンで食べられます。

海、テーマパーク、料理以外は文化や他の楽しめることもたくさんありますので、是非にベトナムのダナンに来てみてください。



参考文献:

<https://www.travel.co.jp/guide/article/38685/>

<https://honeylemonspice.com/hotel-danang-1/>

https://www.tripadvisor.jp/AttractionToursAndTickets-g298085-d2255351-Ba_Na_Hills-Da_Nang.html

<https://m5hk.com/archives/21096>

セイロン紅茶



名前： インドウルウエ
INDURUWE
サンカ ヴィラジ
SANKA VIRAJ
出身： スリランカ
所属： 神戸国際大学
経済学部
4年

昔からセイロンティーは世界中でどこの国でも知っている紅茶になっています。しかし、セイロンとはスリランカ国とは知らない人が多いはずだと思います。日本にもスリランカから輸出している紅茶にはいろんな種類がありますが、その紅茶の生産地はスリランカだと知らない日本人が多いのは自分の経験でわかりました。

セイロンティーは、以前はセイロンとして知られていた島国のスリランカで生産されたお茶です。スリランカの国土北海道より少し小さいですが、標高、気候、土壌の種類、植物の品種、天候の範囲が非常に広いため、そこで生産されるお茶の種類によって味と特徴

は大きく異なります。地域の特徴にもかかわらず、古典的なセイロンのフレーバーは、一般的に大胆で、十分なコクで、活発であると考えられています。中ぐらいのコクから十分なコクのタンニンと、柑橘類、チョコレート、またはスパイスのいくつかの種類があります。

セイロンティーは、茶の木、(Camelliasinensis)の乾燥した葉から作られています。葉は長くて薄く、ワイヤーのように見えるため、しばしばしなやかであると言われます。お茶の世界では、これらの葉は非常に簡単に認識されています。ほとんどのセイロンティーはオーソドックスなお茶です。つまり、手作業で加工され、さわやかで明るいお茶になります。

スリランカの紅茶は実はスリランカ生まれではありません。1824年イギリス人が中国からセイロンに茶樹を持ち込んだからです。そしてペラデニヤの王立植物園に植えられ、それがスリランカで最初の非商業的な茶樹であると考えられています。

1867年からほぼ20年後、スコットランドのジェームステイラーは、最初の商業茶畑として、セイロンのキャンディ市にあるルーレコンドラエステートに19エーカーのお茶を植えました。最終的にLoolecondra (ルールコンデ



茶摘み体験をする観光客



スリランカの高地（ヌワラエリヤ）の茶畑

ラ)という商品が販売された結果、1872年にキャンディで、1873年にロンドンに最初の茶が委託されました。これらの先駆的な取り組みは試行錯誤によって行われ、お茶の加工機と製法の導入による改良で、さまざまな方により長年にわたって改良されてきました。

島で生産されるセイロンティーには主に3つのタイプがあります。紅茶、緑茶、白茶。188,000ヘクタール以上の土地でお茶を生産しているセイロン紅茶は世界で最も人気があり、セイロングリーンティーとセイロンホワイトティーがそれに続きます。

一部のスリランカの生産者は、緑茶やその他の種類のお茶を含む製品を提供していますが、ほとんどのセイロン茶は紅茶です。セイロン茶は3つの異なる標高に分類されます。高地（4,000フィート以上（1200m以上）、中地（2,000～4,000フィート（600m～1200m）、低地（海拔2,000フィートまで）です。例えば、KIRINの「午後の紅茶」では、レモンティーで使用されている高地のヌワラエリヤ、ミルクティーで使用されている中地のキャンディー、そしてストレートティーで使用されている低地のディンブラ、計3地域の茶葉が使用されています。

セイロンティーは、低成長から高成長のお茶まで、お茶の生産の全範囲に及びます。セイロンブレンドは19世紀の終わりに確立された伝統があり、一部の企業は今でもブレンドセイロンティーをセイロンオレンジペコまたはセイロンBOPとして販売しています。良いブレンドは、活発でフレッシュなフレーバーを備えた明るく豊かな銅のような色を生み出します。パック済みのお茶が100%純粋なセイロンティーであることを確認するには、セイロンティーボードライオンのロゴを探してみてください。

セイロンティーには5つの健康上の利点があります。まず新陳代謝が高まりエネルギーが増え、脂肪燃焼に役立ちます。そして免疫力が高まります。また血圧を下げる心臓への負担を減らし、血糖値を下げるため糖尿病へのリスクも減らします。またセイロンティーに含まれる抗酸化物質のいくつかは、周囲の細胞の酸化ストレスを防ぎ、肌荒れを防ぎます。

現在、スリランカではセイロン紅茶を生産している会社によって色んなブランドがあります。日本ではAHMAD TeaやZestaやDilmahやJanatなどのスリランカのブランドが購入できます。是非、見かけたら試してみたいかがでしょうか。



セイロン紅茶のブランドロゴ

中国浙江省の食巡り



名前：王 文慶
おう ぶんけい
 出身：中国
 所属：神戸大学
 国際文化学研究科
 修士課程
 1年

まず初めに浙江省は長年の歴史を持ち、中華文明の発祥地の一つとも呼ばれています。この地において、7000年前のカボト遺跡から水田の跡が見つかりました。今回を機に、皆様を紹介したいのは私の故郷—浙江省の各市の「小吃（シャオチ）」と呼ばれるものです。中国語のシャオチとは簡単な食事代わりになる軽食のことです。餅や饅頭や食事の最後に出るお菓子などがあります。そして皆さんもご存知かもしれませんが中国の〇〇省という省から成っており、「省」は日本の「都道府県」に当たります。浙江省は11地級市で構成されています。それは杭州市、寧波市、湖州市、嘉興市、金華市、麗水市、衢州市、紹興市、台州市、温州市、舟山市です。これから11地級市の小吃を紹介していきます。

杭州市の有名なシャオチと言えば、西湖藕粉（セイコオウファン）を思い出します。西湖は杭州の一番有名な観光名所です。藕粉というのは蓮根の粉です。西湖藕粉の風味はとても独特であって、栄養価値も高いです。また中国古代、皇帝に特別に提供されていた「貢粉（コウファン）」と言われる粉もあります。食べる前に冷水を少し入れてから、お湯を入れながらかき混ぜれば完成です。出来立ての西湖藕粉の色はやや透明感のある黄色です。消化されやすく、食欲を注ぐ効果と漢方理念のうちの気を補う作用があります。これは老若男女に適している滋養品です。

寧波市の名シャオチは寧波湯圓（ネイハトウエン）です。これは中国を代表する有名なシャオチのうちの一つです。現在の中国の南出身の人の多くは元宵節（春節からの十五日目）で湯圓を昔から食べる習慣が現在も残されています。伝説によると、湯圓は中国の宋（960年—1279年）の時代から始まりました。当時の明州（現在の寧波市）は、中は黒ゴマ、豚脂油、砂糖少々を餡とし、外はもち米の粉で包んで茹でて食べる斬新な食べ物として知られて来ました。



周生記大饅飽（シュウサンキダイワントン）は湖州の名シャオチの一つとしてよく知られています。1930年に周濟相氏が自分の名前を使って湖州唯一無二の「周生記饅飽店」を開きました。厳選したお肉とタケノコを使って、こだわりの元宝状（馬蹄形の金塊のような形）に、高品質の煮汁を加えているところから周濟相氏の独自性が強調されたことにより、それから、「周生記饅飽」が有名になり、地元のシャオチの1位にランク付けしました。



嘉興市において有名なシャオチと聞かれると、嘉興粽子（カコウチマキ）を思い出すでしょう。嘉興で放送されるチマキに関する歴史番組によると、嘉興粽は端午節の民俗料理として知られ、遅くとも明王朝（1368年—1644年）に遡ることができます。さらに清の時代の継承と発展を受け、職人技は日ごとに成熟しました。現在では中国の春節、清明節、端午節など色んな祭りでも欠かせない食べ物となりました。



金華市の名物の一つは金華酥餅（キンカスウービン）になります。これの由来については唐

の時代に遡ることができます。酥餅（スービン）の創始者は中国の唐の軍人一程知節（589年—665年2月7日）です。彼は唐の中国統一に貢献してきた功臣24名のうちの一人でもあります。彼の若い時、生計を立てるために焼餅（シャオビン）を売っていました。ある日、作りすぎて大量に残ったため、翌日も販売できるように、一晩中に火にかけて保存しようと考えました。翌日になった時、シャオビンがカリッ（酥：スー）となりました。その後売りに出された時に、常連さんたちから好評を受けました。それから、このようなシャオビンがスービンと呼ばれるようになりました。

縉雲焼餅（ジンユンシャオビン）は桶餅（トウビン）とも呼ばれ、麗水市縉雲県の伝統的なお菓子で、浙江料理に属しており、650年以上の歴史があるとされています。縉雲焼餅は小麦粉、新鮮な豚肉と梅干菜（メイガンツァイ：高菜漬けに似る黒色の漬物）を主な原料とし、桶の壁にかけ、炭火で焼き上げる名物です。桶の壁にシャオビンを貼り付け、炭火で焼くのに必要とされるのは独特かつ伝統的な職人技です。



龍游発糕（ロンユウファガオ）は衢州市の龍游県の有名なシャオチです。独特な職人技と絶妙な材料で作られています。最大の特徴はもち米酒で発酵させることです。色は翡翠のように白く、ほどよい甘さに香りが食欲をそそられます。ネーミングから言うと、中国語の「ファガオ」は「フガオ」（福高：福がたくさんある）の発音に似ているから、縁起がいい食べ物になりました。祭り期間で地元の人はよくこれを食べます。



紹興市の嵊州（ジョウシュウ）県で一番有名なシャオチは豆腐年糕（トウフニエンガオ）です。豆腐年糕は嵊州の伝統的なシャオチとして知られ、よくお祭りで食べられています。作り方は民間

で古くから伝わってきました。また嵊州こそが豆腐年糕の起源である故、一番本場の味を試したいのであれば、嵊州豆腐年糕を逃せません。特製年糕（ニエンガオ：もち米をこね、蒸して作ったもの）、特製漬物に、赤身の肉、タケノコ、卵、豆腐に加え、炒めてから水を入れて煮込んだ料理です。

台州市の「蛋清羊尾（ダンチンヤンウエ）」は『中国菜譜（菜譜：レシピ）』浙江省の巻に記載されている浙江臨海の伝統的なシャオチです。箸を入れても倒れないまでに卵白（蛋清）を泡立て、乾燥澱粉を加えてよくかき混ぜて衣にします。粒あんのボールをラードで包んでから、乾燥澱粉入りの衣をつけて揚げます。形が羊の尻尾（羊尾：ヤンウエ）に似ているから「蛋清羊尾」という名がつけられています。これは高級レストランでも屋台でも出されているシャオチです。



温州小饅頭（オンシュウショウワンタン）は温州市を代表する名シャオチの一つです。他のところの厚い餃子の皮で包まれるのと違って、薄い皮で下味づけた肉を少しだけ包みます。饅頭が浮くまで茹でます。お碗の中に、茹で汁と饅頭を入れて、干しエビ、海苔、錦糸卵、刻みネギを載せたら完成です。スープも一気に飲めるくらい、うま味があります。舟山市を代表できる有名なシャオチと言えば、舟山海鮮麺を思い出します。舟山海鮮麺は舟山市の伝統的な麺料理です。麺は滑らかで美味しい、スープは栄養たっぷりの魚と豚骨と鶏ガラから出汁をとるので非常に濃厚です。スープに麺を入れてから好きなだけ海鮮（例えば、エビ・アサリ・カニ・タコ・太刀魚・鮑…）を入れ、2、3分間茹でたら完成です。



以上は中国浙江省の11地級市の食巡り一小吃（シャオチ）の紹介になります。

子供たちの夢を実現させるために



名前： ス オ ン テ イ ホ ン DUONG THI HONG
出身： ベトナム
所属： 日本経済大学
経済学部
4年

私はベトナムの北部にありますタイグエン省ダイトゥ市の出身です。

私は、2018年4月に日本経済大学神戸三宮キャンパスに入学しました。そして、この3年間、日本経済大学ユネスコクラブ・神戸ユネスコ協会青年部の一員として、国内外を問わず、社会活動に励んできました。この1年半はコロナ禍によって海外での活動ができなくなりましたが、2018年はモンゴル、2019年はカンボジアにボランティアにいきました。



それらの地で、私は恵まれない子供たちに会いました。

2018年9月に訪れたモンゴルの首都ウランバートルで

は、DVを受けたり、親から捨てられた子供たちのためのシェルターを訪問しました。そのシェルターは、治安が悪いところにあつたので、防犯グッズをプレゼントし、身の守り方を子供たちに伝えました。

2019年11月、私は神戸ユネスコ協会の仲間たちとカンボジアに行きました。神戸ユネスコ協会は2012年からカンボジアの貧困地域の小学校への支援を継続しており、2つの小学校に井戸に寄贈しました。

モンゴルでも、カンボジアでも、私は貧困地域の子供たちと話しました。勉強が好きで

すか？勉強をしたいですか？と問えば、答えはいつも明るい顔で「イエス」であり、「将来何になりたいか」と聞けば、医者や学校の先生、スポーツ選手など色々な「夢」が出てきます。

子供たちの無邪気な声を聴くと、私は15年前のベトナムにいるかのような感覚になりました。15年前、私はベトナムの田舎の小学生でした。実家は貧しく、私は「夢」を語ることもありませんでした。私が、一番欲しいものは「お金」でした。

「夢」は「お金」があって、時間があって、勉強ができて初めて「現実」になるのです。しかしながら、「現実」はとても厳しく、多くの子供たちはたとえ「夢」があっても、「夢」は単なる「夢」で終わってしまうかもしれないのです。子どもながらに私は、お金がない自分が「夢」を持っても意味がないと思っていました。

私は、実家から3キロ離れている小学校に毎日1人で歩いて通いました。私の家の周辺には電気が通っておらず、まさに今のカンボジアの貧困地域同様でした。当時の私が一番しなければならないことは「夢」を抱くことではなく、両親の家計を楽にするために早く成長してお金を稼ぐことでした。

ところが、私が高校生を卒業する頃、家庭の経済状況は好転し、子供の頃には「夢」にも考えていなかったのですが、私は、日本へ留学できることになりました。

私が留学できた理由は、ベトナムの経済成長を無視することはできないと考えます。しかし、経済成長はベトナムの子供たちに平等にチャンス



をくれたわけではありません。今でも、多くのベトナムの子供たちの「夢」は、「夢」のまま葬り去られているのです。

モンゴルもカンボジアも、ベトナムに負けず経済発展しています。しかし、国家の経済成長は貧困問題を解決しないのです。

むしろ、モンゴルの貧困地域は同国の経済発展と共に拡大し、カンボジアも先進国と見間違うほどに輝いている首都プノンペンから数十分車で移動するとスラム街があるのです。

ユニセフは家がなく、路上に暮らすストリートチルドレンが全世界に3千万人いると推定しています。子供たちは家や施設を出たり入ったりを繰り返したり、食料や職場を得る為に移動を欠かさないためにその数を正確に推定することは非常に難しく、ストリートチルドレンのケアをしているNGO団体の多くは、世界に1億人以上のストリートチルドレンがいるのではないかとみえています。

世界経済は発展しています。しかし、多くの子供たちが路上で危険と隣合わせの状況で生きているのです。

日本の神戸に留学できた私と、諸国の貧困地域で「夢」を語る子供たちの違いは紙一重であり、同じようなものであるように思えます。しかし、今、世界の国々は、経済発展しながら格差化しており、「夢」を実現できる子供と、できない子供の2つに分かれてしまっているのです。

モンゴル、カンボジア、ベトナムから私は神戸の日常に戻りますと、日本や神戸も同じような問題に直面していることに気がきました。

経済発展を成し遂げ、先進国の一員である日本においても現在、ご飯を食べられない子供たちが増えており、全国に「子供食堂」が開設されているというのです。日本の子供たちは飢えているのではなく、今日の1日の食べ物がない訳ではないと思いますが、日本も「夢」が実現できる子供たちとできない子供

たちに分けられていることは事実なのではないでしょうか。

私たち神戸ユネスコ協会青年部は、2020年11月から「神戸ユネスコ・キッズカフェ」として留学生が行う「子ども食堂」を神戸・元町で行いました。私は、神戸の子供たちにベトナム料理を食べて頂きながら、私たちベトナムからの留学生がベトナムについて子供たちに説明しました（ベトナム料理の他にも、ネパール、モンゴル、セネガル、ウガンダ、ウズベキスタン、ミャンマー、中国、スリランカ等の料理を作ってきました）。

「子ども食堂」をしても、世界の貧しい子供の問題が解決し、子どもたちが「夢」に溢れた生活を営めるようになるわけではないです。しかし、厳しい現状に直面している子どもたちに会うと昔の自分を思い出します。そして、頑張りたいと思わずにはいられません。

モンゴル、カンボジア、ベトナム、そして、神戸において、私は一学生に過ぎず小さな存在です。とても、世界を変え



ることはできませんが、それでも、自分ができたいと思っています。そして、1人でも多くの子供たちの「夢」を実現させたい。少なくとも希望だけでも与えたい。それが、子供の頃「夢」を持てなかった私の今の「夢」です。

「インド洋の真珠」と呼ばれる 母国スリランカについて



名前： ジャヤラス ジャヤラスゲ
JAYALATH JAYALATHGE
ドナウダリ プラタナ
DONA UDARI PRARTHANA

出身： スリランカ
所属： 流通科学大学
商学部
3年

スリランカといえば、どのようなイメージがありますか。まず、思いつくのは紅茶だと思えます。実は、紅茶以外に、さまざまなことでスリランカは世界的にも知られています。スリランカの文化について調べたことを紹介していきたいと思えます。

母国であるスリランカは、インドの南東海岸のすぐ沖にあるインド洋に位置する島国です。スリランカはインド洋に囲まれているので「インド洋の真珠」と呼ばれています。また、スリランカの紅茶は、世界的にも大変人気があるので、昔は「セイロン」とも呼ばれ

ていました。スリランカは、本島といくつかの小さな島で構成されています。日本と比べると、面積は北海道の約 8 割です。人口は約 2000 万人です。また、首都はコロンボです。

スリランカには 4 つの主要な人種グループがあります。シンハラ人、タミル人、イスラム人、そしてバーガー人です。その中で、シンハラ人はスリランカの主要な民族グループです。人口の約 7 割を占めています。また、スリランカでは 仏教、ヒンドゥー教、キリスト教、イスラム教という 4 つの主要な宗教があり、主な宗教は仏教です。スリランカでは、シンハラ語とタミル語の 2 つの公用語があり、また、英語も使われています。シンハラ語が、国の主要言語になります。

スリランカの気候は、亜熱帯気候で高温多湿です。しかし場所によってかなり違いがあり、海岸部や低地だと平均気温が 27 度ぐらいですが、高地だと涼しくて過ごしやすくなります。ヌワラエリヤだと、平均気温が 22 度で一年中春のような気候です。季節風の影響により乾季と雨季があります。また北部と南部とても気候に違いがあります。

母国は、2500 年の長い誇りの歴史を持っています。1948 年にイギリスから自治領のセイ



茶葉を拾う写真です

ロンとして独立し、1972年にはスリランカ共和国となりました。昔は城として使用されていたシギリロックは外国人観光客にとって魅力的な場所です。現在、このシギリロックは世界遺産に登録されています。



世界遺産に指定されているシギリヤロックの写真です

小さい島国である私の母国は、多くの資源に恵まれています。その美しさから奇跡とも言えます。素晴らしい庭園、魅力的な滝、美しい川、森、そしてさまざまな植物、花は美しさを増す主な恩恵です。それが魅力となって、観光客の増加の理由にもなっています。また、スリランカではペラデニヤとフガラという有名な熱帯植物園があり、それぞれの植物園では、さまざまな野生の花、珍しい樹があります。スリランカは資源に溢れた国なので、植物園以外にも魅力的な滝、川、森、山、タンク、花畑、動物、鳥、海があります。また、廃墟の街もあります。スリランカの最も高い山の高さは、2524メートルのピドウルタラガラです。最も長い川は長さ300キロメートルを超えるマハウエリです。それ以外にも有名な川としてカラに、カル、ワラウェ、ニラウエラという大きな川があります。また、ダンヒダやラクシャパナとという美しい滝もあります。それぞれの滝を利用して電気を生み出しています。スリランカでは、世界的にも有名な ヤラ、ウ

イルパストウ、クマナという野生生物保護区があります。それぞれの野生生物保護区では珍しい動物、鳥、爬虫類が自由に生息しています。スリランカ人のみならず外国人観光客もそこでサファリをするのが大人気です。また、自然の生息地には多くの種類の鳥が生息しており、クジャク、イーグルス、ヤケイ、オウムなど400種類の珍しい鳥も見られます。

スリランカの経済は、農業と貿易の両方に基づいています。紅茶、ゴム、ココナッツ製品は重要な輸出品であり、その他にもスパイスとして、コショウ、シナモン、カルダモン、クローブなども輸出されています。また、スリランカの宝石は世界的に有名であり、海外から宝石を探しに来る商人も多いです。それらが、スリランカにとって重要な市場になっています。

私は、このような自然が多く溢れた国、スリランカで生まれたことに誇りを持っています。機会があれば、一度スリランカに旅行し、スリランカの美しさを体験することをお勧めします。これからも、スリランカの文化を日本に発信していきたいと思います。そして、将来的に、日本とスリランカの架け橋になれることを願っています。



この写真はスリランカで象に餌をやる写真です。

我が家の宝物—私の家族



名前：易 苑莎
出身：中国
所属：神戸大学
経済学研究科
修士課程
2年

私の家族は父親と母親だけです。小さい頃におばあちゃんとも一緒に暮らしていましたが、小学校一年生の時におばあちゃんがいなくなりました。なので、自分の家ではそんなに賑やかではありませんが、両親がいつでも私のことを最優先にし、私のことを理解してくれますので、私はいつも両親を感謝しています。



親と山登り

自分の記憶があってから、両親に叱られたことがほとんどありませんでした。両親自身の子育て方針がありますから、私が間違えたことがありましたら、いつも優しく教え、直してくれます。そうしましたら、自分もすぐ反省し、これからも気を付けるようになりました。

また、中国では子供の時から様々な塾やセミ

ナーを強制的に参加しないといけないと両親からの要求が多かったですが、私の両親はそのような圧力をかけたくないから、いつも私の意見を聞いてから判断します。両親のおかげで、自分は自分らしくて成長しています。したがって、両親と関係はとても仲が良いから、いつも山登りをしたり、映画を見に行ったり、カラオケをしに行ったりするところが多いです。

中学生から、父が仕事のため、いつもかなり離れているところに一人暮らしを頑張っていました。最初も家族全員引っ越しのことも考えましたが、父の仕事の異動がかなり多く、私も実家の一番良い中学校を通過していましたので、結局はそのままで引っ越さなかったです。

その時、母はずっと両親の役を務めました。腰痛などなかなか力仕事ができないですが、自分もできるだけ母に負担を掛けないように心がけています。知らないうちにどんどん強くなりました。

父も一人で頑張っていますから、春夏休みに入りますと、自分と母はすぐに父のところに飛びに行きます。週末に入りましたら、家族三人は近所に旅行や散策しました。山でも海でも美術館でも様々な新発見ができました。父住んでいる場所がよく変わりますから、家族三人の旅行場所も増えていました。したがって、学校の日がとても忙しかったですが、休みの日がとてもリラックスでき、充実に楽しめました。遊びに行くときに、父はいつも私たちのカメラマンでした。たまに父がお休みを取れて戻って来ました時の週末も切り替えとして旅行も行ってきました。会える時間がそんなに長くではありませんが、お互いにまたいつか会えることを期待しながら、自分の生活を頑張っています。



父が休みを取れて帰りました!

今から考えると、その頃の思い出は少し寂しかったですが、すごく幸せでした。

留学する前に、一人暮らしの経験が全くありませんでした。そのため、留学に行く前に、両親も自分も様々不安でした。両親はいつも私のことを心配していますが、私の成長や視野を広げるため、心配でも私の留学をよく賛成しています。留学前の夏休みにちょうど父働いている場所、上海と近所に旅行してから直接来日しました。

日本に来てから4年目ですが、毎週時間があれば、両親とビデオ通話をし、自分留学の面白い話か今の悩みを遠慮なくいっぱい話しました。また、お休みがありましたら、できるだけ家に帰り、家族とまた旅行を行ってきました。両親は去年の大学卒業式に日本に來ると約束しましたが、新型コロナウイルス拡大の影響で、ビザ申請も拒否され、卒業式も中止されました。

来年三月の大学院の卒業式に、両親は来日できるように祈っています。自分が生活した日本の場所や文化を両親に紹介し、一度でも経験してもらいたいという夢を叶いたいです。それまで、今も両親が期待している通りに、自分が日本に精一杯に頑張っていきたいと思っています。



帰国した翌日に海にきました!

人生の中、最高の家族



名前：林 リン キティイ 綺婷
出身：中国
所属：神戸大学
保健学研究科
修士課程
2年

皆様、家族の範囲と聞かれる時、どう思われるのか。家族は抽象的な概念であり、それぞれの人々が一つのグループに入り、一つのユニットとして成り立っている。決して血縁関係に限らず、個人が認識したものである。そこに、私の家族——私が認識している家族を紹介しようと思う。それぞれ、3つの枠である。

まず、血縁関係である親家族となる。父、母、弟と私である。大学に入学するまでに、ずっと4人家族で生活していた。親は自営業をしているが、朝から晩まで、年末年始や祝日も休まずに働いた。裕福ではなかったが、幸せであった。一番幸せな時を言うと、夕ご飯の時間であった。母はどのように忙しくても、私たちのために、夕ご飯を作っていた。高級でもなく、普通の食材であったが、母の味は最高だと今までも思われる。コロナで2年ぶりに帰ってなかったが、懐かしかった。一家で食事の時間帯で、私はいつも学校であったことをシェアしたり、親は今日あったことを喋ったり、テレビのニュースをみながら一緒に過ごした。一番親しいユニットはこのユニットであろう。喜ぶことも一緒にしたり、悩みも一緒に乗り越えて、もちろん、喧嘩もしたが、一番親しい家族こそ、傷せずに直れるやろう。

今、弟と私も親と一緒に住んでいないが、私は日本に留学し、弟は仕事の関係で、別の

ところに住んでいる。弟は、土日や休日に家に帰ることができるが、忙しくて旧正月や祝日しか帰っていなかった。私は、日本に留学し、家に帰っても、滞在時間は短かった。そして、毎日親とビデオ通話をして、お互いにシェアすることができた。物理的な距離は遠かったが、心理的な距離は近いと思う。さらに、家族という認識も深くようになった。

次に、次のステップの家族となる。私は旦那と一緒に日本に来た。旦那と大学で知り合って、今年は8年目になった。もともと、日本に来る提案は旦那が言う始めてであった。旦那は大学で経済学を学んだが、日本のことについて興味を持つ、日本語の勉強もしていた。そして、私が卒業したとたんに、大学院に進学することに考え



た際に、一緒に大学院に進学するのかを誘われて、親の合意を得た上で一緒に日本に来た。日本語の勉強も決まった時からスタートした。その時点では日本に来る前半年だったが、それでも、日本に来た時、まったく喋れなかった。買い物さえ怖かったので、来た1カ月ぐらい、学校以外、旦那がいなかったら、どこも行きたくなかった。一番、苦しかった時期であった。その時、旦那は日本語を早く慣れないと、何もできないと言われて、あちこちにアルバイトを応募してくれた。面接の準備などもしてもらって何回の挑戦で、来日の1カ月後にアルバイトができた。語学学校は半日であったが、その次はアルバイトに行き、それでも足りないと言われてたが、KICCの日本語マーチングコースにも通いながらとした。ちょっとずつ喋れるようになってきた。半年後

に、旦那は早めに大学院に合格したが、私はまだ決めていなかった。その際に、旦那はあなたも早く大学院に進学しないと、語学学校では時間をもったいないと言われた。日本の生活を慣れたばかりの私にとっては、わかるが、まだまだと自己否定をしていた。その際に、旦那と一緒に、いろいろな学校を調べて、一緒に研究計画書を考えて、面接の準備をしていた。幸いで、語学学校を卒業する直前に、神戸大学の研究生を合格した。

旦那と一緒に生活するのは今年、3年目となった。親家族から夫婦家族になって、再び家族ということを考えてみた。血縁関係ではなく、信頼できる人と一緒に家族を成り立って、一緒に苦しみ乗り越えて、成長して、学ぶことができた。それは次のステージというか、前の家庭から次の家庭に行くという感じであろう。



最後に、日本の家族である。日本の家族は、研究室のメンバーや先生となる。研究生として、入学する時には、一人の中国人先輩しかいなかった。メンバーが少なく、寂しかった。2年目、修士として入学し、一緒に研究室に配属するのは4人であった。日本人の博士2人と修士の1人であった。もともと静かな研究室であったが、急に賑やかになった。みんな学校にきて、一緒に勉強したり、喋ったり、交流できるようになった。ほぼ毎日登校している私は、家以外、研究室の時間は最も長かった。

たまに、誰の家に植えた野菜をいただいて、子どもの写真を見せていただいて、お互いに助け合うというか、私にとってすごく世話になっている。国籍を問わず、普通に扱っていて、一緒に研究のことを議論したり、悩みを相談できたり、家族とえよう。コロナでずっと外食はできていなかったが、外食できれば、もっと深めていこう。



以上を述べるように、私の家族は親家族、夫婦家族、日本の家族という3つの枠で構成している。私にとっては、それぞれも大切であると思う。幸せだったり、一緒に過ごしたり、悩みを乗り越えたり、助け合うことができるのは私の家族である。

Introduction of My research -How employment affects subjective well-being among older adults



名前：姜 茗予
出身：中国
所属：神戸大学
経済学研究科
博士課程後期
3年

In recent years, with the improvement of living conditions and the decline in birth rate, aging has become an important social issue. Many countries worldwide are facing a rapidly aging population, which leads to a shrinking number of workers and a growing social security solvency problem. To address this problem, countries have implemented various elderly employment promotion policies. In Japan, owing to its rapidly aging population, the government implemented the Elderly Employment Stabilization Law (EESL) and the Pension Reform Act in 2006 to increase the employment of older people. However, when promoting the employment of older adults, it is important to consider changes in individual well-being. This study assesses the effect of employment on the well-being of older adults in Japan.

Does being employed make individuals happier? According to neoclassical economics, individuals maximize utility by choosing particular combinations of consumption and leisure. Individuals gain utility directly from leisure, while labor time has a negative effect on utility (Borjas and Van, 2010). However, with the increase in labor time, additional wages increase consumption, which leads to an increase in individual utility. Therefore, although labor time itself has adverse effects on utility, the increase in wages results in positive utility for individuals. However, when household income is controlled for, this effect is expected to disappear, and the labor itself could have adverse effects on

utility.

This study examines the effect of continued employment after age 60 on the subjective well-being of older adults. One hypothesis is that employment provides not only pecuniary benefits but also spiritual reward to people through social contact, and individual identity. However, when perceived as being involuntary, employment may decrease the well-being of older adults and is likely to decrease free time and increase physical and mental stress.

This paper is related to the extensive literature concerning the impact of retirement on the subjective well-being of older adults, in which empirical evidence is mixed, and either adverse, positive, or no effects are found. Charles (2004) uses U.S. data and finds a negative OLS estimator and a positive instrumental variables (IV) estimator. Based on the England data and using Regression Discontinuity Design (RD), Johnston and Lee (2009) indicate that retirement increases subjective well-being. Latif (2011) uses Canadian data and finds a positive impact on subject well-being. Horner (2014) uses international data from sixteen countries in Western Europe and the U.S. and also finds a positive effect. However, based on Europe data, Fonseca et al. (2014) and Coe and Zamarro (2011) find that after controlling for endogeneity, no significant effect of retirement. Based on British data, Kesavayuth et al. (2016) find that retiring does not necessarily affect life satisfaction. Moreover, according to Kapteyn et al. (2013), retirement has no effect on life satisfaction metrics in the United States or Europe. Furthermore, Bonsang and Klein (2012) uses the Germany data and finds that retirement has a positive effect on satisfaction with free time, a negative effect on household income, and the average effect on life satisfaction is negligible. Although the literature above all addresses the endogeneity of retirement decisions by exploiting retirement policy changes or pension eligibility age, the results still turn out to be mixed. The mixed results may be due to differences in the definition of retirement. Alternatively, it may be due to differences in statutory retirement ages, post-retirement earnings, and social awareness, such as the socially acceptable retirement age or social

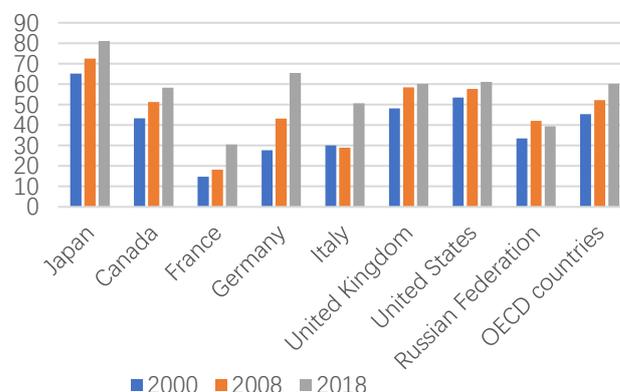
norms across countries.

The main contributions of this study are as follows. First, it addresses the endogeneity of employment decisions in Japan. People with idiosyncratic low levels of well-being or those facing transitory shocks that adversely affect well-being might disproportionately select into retirement (Charles 2004). Moreover, unobservable factors may affect happiness and employment simultaneously. However, to our knowledge, none of the previous studies have addressed the causal effect in Japan. Previous studies have only examined the inferred correlation. Second, in examining the well-being of older adults, it is vital to determine the impact on overall well-being, as well as the heterogeneous effects of job characteristics such as regular and non-regular work.

This study uses subjective well-being measures that are available in the Japanese General Social Surveys. The Probit ordinary least squares (POLS) results indicate that employment increases satisfaction in family finances. However, the effects disappear after using IV-POLS approach. Furthermore, this study finds that the effect of employment on well-being differs depending on the employment status (i.e., being a regular or non-regular employee). However, the differences disappear after controlling for household income.

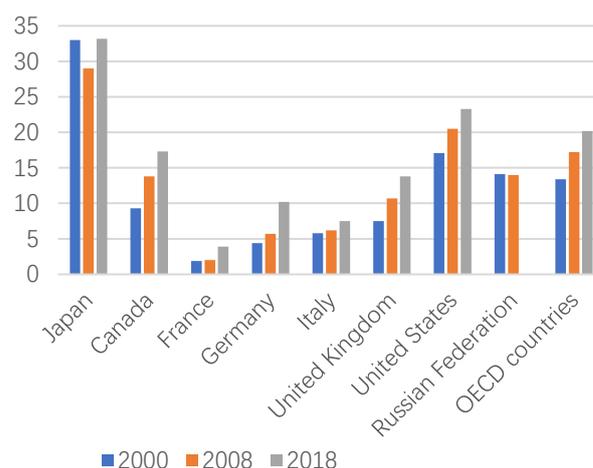
The following can explain why employment has no impact on the subjective well-being of older adults after controlling for household income. According to neoclassical economics, after controlling for household income, labor itself could have adverse effects on utility. However, according to the new happiness economics, individuals derive utility not only from income and leisure but also from highly valued social relations, from self-determination, and through their own competence (Frey, Bruno, and Stutzer, 2008). Employment provides not only pecuniary benefits but also a spiritual reward to people through social contact, individual identity, and occupational attachment. Therefore, the negative effects of reduced leisure time might cancel out the positive effects of spiritual rewards, and thus result in no overall impact.

Figure 1: The employment rates of older adults (men age 60 to 64) across countries



Source: OECD.Statistics <https://stats.oecd.org>

Figure 2: The employment rates of older adults (men age above 65) across countries



Source: OECD.Statistics <https://stats.oecd.org>

Figure 3: The 2006 EESL and the 1994 pension revisions

Cohort born	Age				
	60	61	62	63	64
Born before 1941.4.1	fixed rate part of pension starts				
1941.4.2~ 1943.4.1		fixed rate part of pension starts			
1943.4.2~ 1945.4.1			fixed rate part of pension starts		
1945.4.2~ 1947.4.1				fixed rate part of pension starts	
1947.4.2~ 1949.4.1					fixed rate part of pension starts
1949.4.2~ 1953.4.1					

Note: 1941.4.2 represents 2 April 1941

対話ログ要約に基づく 個人適応対話の生成



名前：陳 思楠
 出身：中国
 所属：神戸大学
 システム情報学研究科
 博士課程後期
 2年

世界中の高齢人口の増加や、新型コロナウイルス感染の影響に伴い、在宅高齢者の人数が急増している。特に独居高齢者や、在宅要介護の高齢者に対し、地域社会とのつながりが希薄になり、心理的な状態の不安定や、孤独感が一層深刻化になっている。さらに、精神的・身体的な機能の低下に伴う軽度認知障害 (MCI) や廃用症候群などの疾病になる恐れがあり、医療・福祉施設や遠隔家族の負担が高まっていることが課題になっている。こうした背景から、我々は在宅高齢者の心を支え

る「心のケア」の必要性があると考えている。

我々の研究グループでは、在宅高齢者の「心のうち」に焦点を絞り、機械とのインタラクションを「対話」の形で実現することを目指している。カウンセリングや日常会話を達成することにより、過去の対話の履歴から、在宅高齢者の「心のうち」の把握が期待できる。在宅高齢者と対話する機械の中、我々は特に、バーチャル・エージェント (VA) 対話システムに着目している (Figure 1)。VA 対話システムとは、仮想されたインタフェースを備える機械が仲介人として、人間とのインタラクションを行うシステムを指す。医療やヘルスケア、教育、ガイダンス (案内) 等、VA 対話システムは様々な目的で活用されている。本研究の目的は、VA 対話システムを用いた継続的な対話の実現に向け、個人適応対話の生成手法を試作することであり、我々は次の2つの技術的なチャレンジに着目している：(C1) 在宅高齢者の発話内容へのより深い理解。(C2) 発話内容に基づくダイナミックな応答の生成。アプローチとして、発話内容から抽出したキーワードに基づき、それに関連する過去の対話の履歴 (対話ログ) を要約する。さらに、複数の要約と発話内容との感情分析の

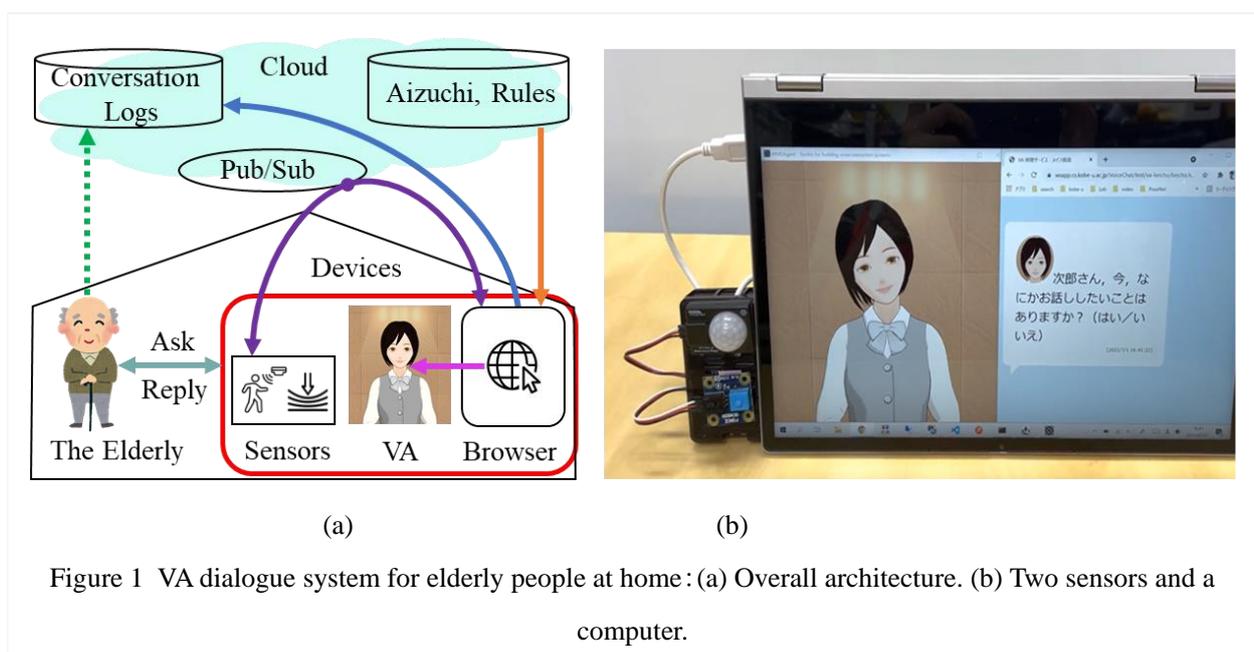


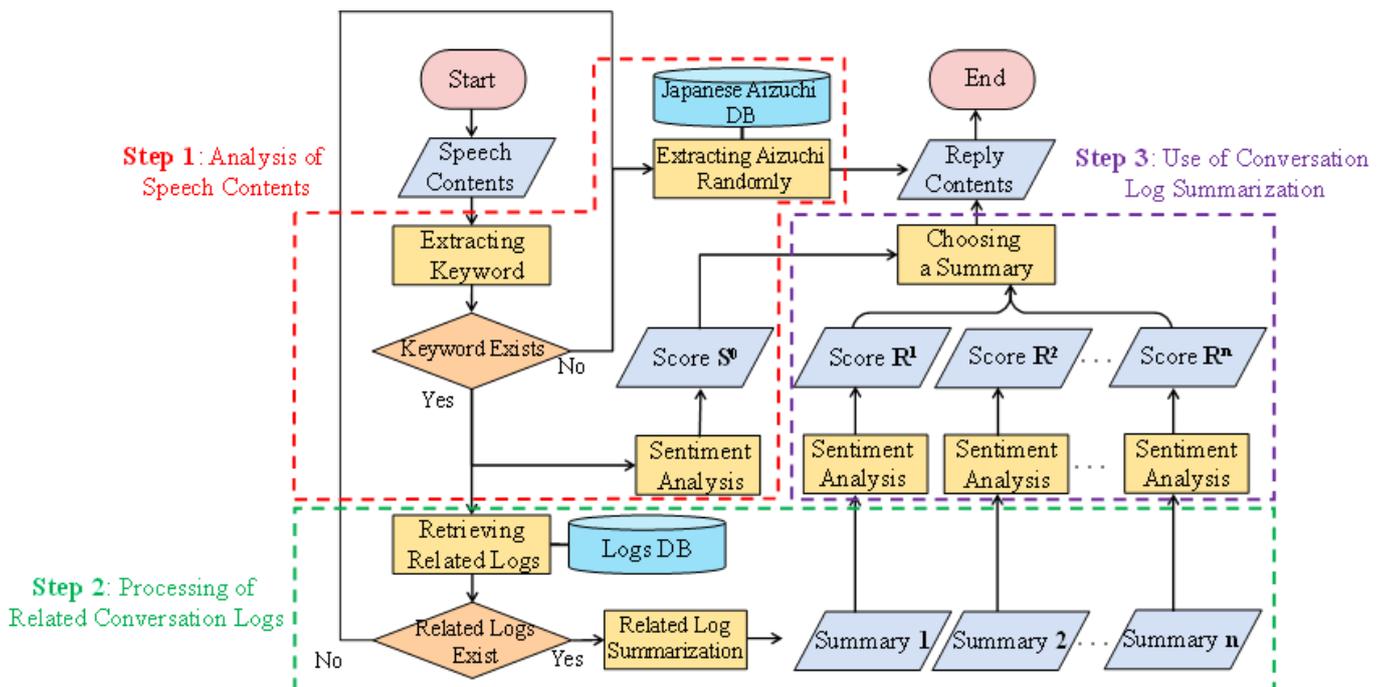
Figure 1 VA dialogue system for elderly people at home: (a) Overall architecture. (b) Two sensors and a computer.

結果を比較することにより、最適な要約を返答する。具体的に、次の3つのステップが必要と考えている (Figure 2) : (Step 1) 発話内容のキーワード抽出と感情分析。(Step 2) 関連対話ログの抽出と要約生成。(Step 3) 要約の感情分析と発話内容との比較。

試作手法では、Step 1 のキーワード抽出では、形態素解析技術を活用し、ユーザ指定の品詞に存在する形態素をキーワードとする。一方、Step 1 と Step 3 の感情分析は、シンプルな感情辞書を活用し、ネガティブ判定のスコア値を計算する。また、Step 2 の要約は、マルコフ連鎖を用いてランダムで要約を生成する (Figure 3)。さらに、Step 3 の比較では、ネガティブ判定による「共感モード」または「反感モード」に応じて感情付きの内容を返答する。共感モードとは、発話内容と感情的に最も近づく (スコア値の差分の最小値) 要約を返答する処理であり、反感モードはその逆処理である。これによって、対話の柔軟度や擬人化・親密度の向上も期待できる。

考察では、我々は発話内容の話題や感情への把握と、個人適応かつ予測できない応答の生成の2つの利点を考えている。従来の対話生成

の手法と異なり、我々は、対話ログに基づく要約をランダムに生成・洗練する。このように、在宅高齢者と VA との対話が多ければ多いほど、VA はその高齢者の特徴への理解を深めている。一方、我々は対話内容の豊富性の不足と、要約の言葉の正しさの不足の2つの制限を考えている。過去の対話の履歴をめぐることにより、それ以外の対話内容の生成ができないことが課題である。また、要約の生成はランダムで選んだ形態素をつなげるため、言葉の正しさの不足も課題である。そのため、今後の課題として、発話内容のキーワードをクラウド API やリンクドオープンデータにかけることで、外部情報も対話中に適当に導入し、さらに、応答内容の言葉のミスのない VA 対話システムの実現を狙う。



中国語を母語とする日本語学習者の
発話における漢語使用の実態

—「多言語母語の日本語学習者横断コーパス」を用いた調査—



名前：鄧 琪
出身：中国
所属：神戸大学
国際文化学研究所
博士課程後期
3年

日本語の語彙には4種の語種が存在するが、種類として一番多いのは漢語である。漢語の習得について、漢字の知識を持っている中国語を母語とする日本語学習者(以下 CLJ)は有利であると思われるが、このことはCLJが漢語習得に何も問題を持たないことを意味するものではない。CLJに必要となる漢語指導を考えていくためには、CLJが漢語使用に関して抱える問題を特定する必要があるだろう。この時、学習者の漢語使用の媒体としては書き言葉と話し言葉の2つがあるが、従来の研究は書き言葉を課題にし、話し言葉の分析は必ずしも十分ではなかった。また、CLJに特有の問題点を明らかにするためには、日本語母語話者(以下 JNS)と比較したり、異なる母語を持つ他の学習者と比較したりすることは重要であろう。そこで、本研究は、CLJの話し言葉に注目し、様々な習熟度段階にあるCLJの漢語使用実態を調査し、JNSとの間にどのような差が存在するのか、また、異なる母語を持つ学習者と比べてCLJに特有のものであるのかを明らかにする。CLJの漢語習得に関わる研究について、たとえば、張(2017)、許(2011)などが挙げられ、また、学習者コーパスを利用してCLJの漢語使用実態を調査した研究について、胡(2013)などが挙げられる。過去の研究はそれぞれ重要な知見を示しているものの、大規模な学習者コーパスを利用した研究、話し言葉を分析した研究、学習者の習熟段階を区別した研究、他の母語話者と比較した研究、などについてはほとんど行われて

いない。

上記に基づき、本研究では、大規模な日本語学習者コーパスを利用し、CLJの話し言葉における漢語使用の状況と問題点の解明を目指す。なお、「漢語使用」という概念は極めて広範であるため、ここは総語数と高頻度で使用された上位語の内容という2点に着目する。

まず、総語数について、各言語を母語とする日本語学習者および母語話者が使用した漢語の総語数について見ていきたい。これらについて調査を行った結果、以下の図1のようになる。

図1 CLJ・KLJ・ELJおよびJNSの漢語総語数

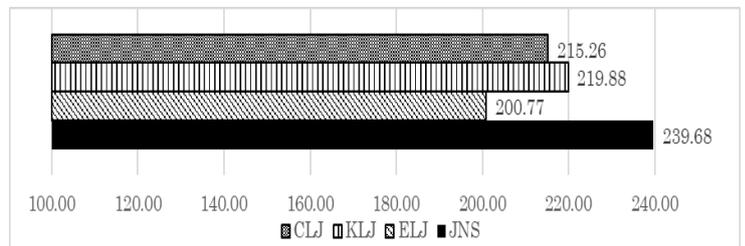


図1からわかるように、CLJの漢語使用量はJNSとKLJより少なく、JNSの約88.48%であり、KLJの約97, 90%であった。母語という要因は漢語使用に影響を及ぼすかについて、クラスカル・ウォリス検定を行った結果、話者間の間には0.1%水準で差があることが確認された($K=17.32, df=3, p<.001$)。また、ボンフェローニ下位検定を行った結果、CLJとJNSとの間には5%水準で、ELJとJNSとの間には0.1%水準で差があることが確認されたが、他のグループ間には差が見られなかった。

次に、習熟度の観点について見てみよう。

図2 CLJの習熟度段階別の漢語使用総語数

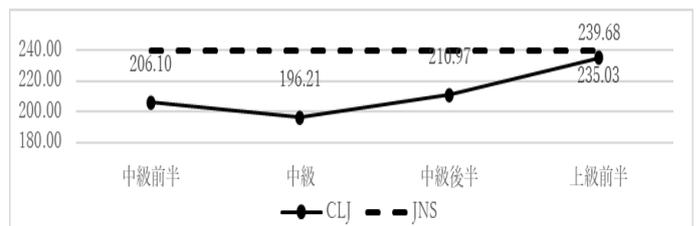


図2を見るとわかるように、CLJの漢語使用の総語数は中級前半から中級にかけて低下しているが、中級から上級前半になるにつれて増加し

ている傾向が見られた。

続いて、高頻度で使用された上位語の内容について見てみよう。以下、CLJ 中級前半・CLJ 中級・CLJ 中級後半・CLJ 上級前半・CLJ 全体・KLJ 全体・ELJ 全体・JNS という 8 種の話者グループを第 1 アイテムとし、また、これらが使用した漢語上位語 60 語を第 2 アイテムとしてコレスポネンダ分析を行った結果、以下のような図 3 が得られた。

次元 1 (横軸) と次元 2 (縦軸) の寄与率はそれぞれ 69.01% と 15.43% となり、全体の約 84.45% を説明することがわかった。また、2 つの軸について言えば、次元 1 の寄与率が高く、横軸上の位置がもっとも重要な分類観点になっていると言える。この点をふまえてデータを観察すると、もっとも右側に JNS が位置され、原点付近に KLJ と ELJ が位置され、また、左側に CLJ がまとまって布置されている。横軸に従って分類すると、1 以上は JNS ゾーンに、0~1 は KLJ ゾーンに、また、0 以下は ELJ と CLJ ゾーンに分類できる。

まず、JNS ゾーンに注目すると、JNS に特徴づけられるのは、一人称代名詞「僕」のほか、「結構」や「丁度」「本当」「全然」など副詞的に使用して、物事の程度や確からしさを表す語であることがわかった。また、「様」や「気」「別」のような、一般的な漢語の概念とは若干ずれるものではあるが、こうした語が母語話者らしい漢字使用を決定していることが明らかになった。

次に、KLJ ゾーンに注目すると、KLJ ゾーンは「映画」「学校」「本」など身近な生活に関わる一般名詞が多く含まれているが、「多分」「普通」「一杯」などのような副詞的に使用される語もいくつか含まれている。結果的にみれば、このことは、3 種類の学習者グループで KLJ がもっとも JNS に近い位置に布置されていることの原因となっていると考えられる。

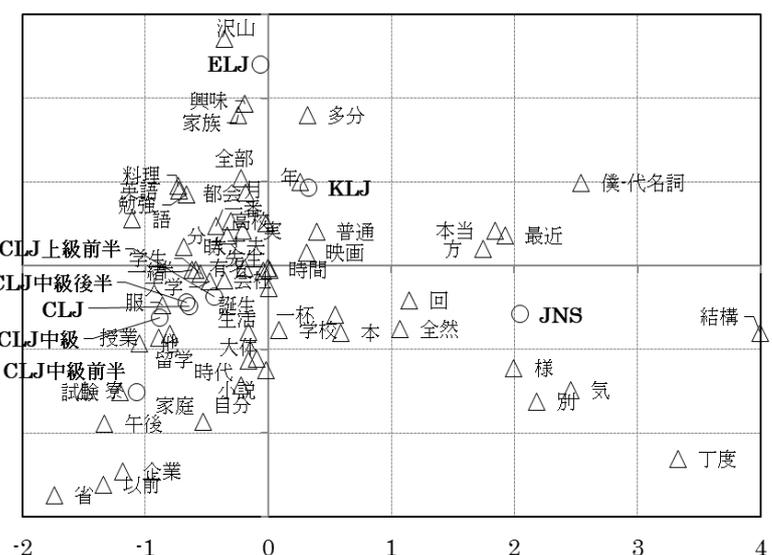
最後に、ELJ ゾーンと CLJ ゾーンについていえば、「興味」「家族」「料理」「留学」など同じく身近な生活に

関わる一般名詞が多い。「沢山」のように副詞的に使われる語も存在するが、その数は KLJ より少ない。

また、CLJ の習熟度段階の変化について、第 2 軸に注目すると、下から上に向けて CLJ のレベルの上昇に合致していることはわかった。中級前半では「試験」「寮」など、中級では「授業」「留学」など、中級後半では「服」など、上級では「大学」「会社」などの語に特徴づけられ、日常語の中で、より学習に直結したのものから、個人生活と関わる語となり、少し内容的な変化はあるものの、その変化は漢語を副詞的に使用するといった母語話者的な漢語使用に近接していることとは言えない。

以上、漢語使用の総語数と上位語という 2 点から CLJ の話し言葉における漢語使用の状況を解明した。特に CLJ を対象とした日本語教育についていえば、CLJ は漢語や漢字の知識を既に持っているため、日本語漢語について特に取り出して指導する必要が薄いと言われてきたが、今回の結果から見れば、CLJ の漢語使用はまだ多くの問題が存在し、また、一定のレベルの学習者であってもその問題が継続している可能性が示唆された。このことは、中上級 CLJ を対象とした日本語の漢語指導の必要性が示されたのではないかと考えられる。

図 3 コレスポネンダ分析の結果



BE KOBE



名前：阿 如罕
 出身：中国
 所属：神戸大学
 科学技術イノベーション研究科
 修士課程
 2年

2017年日本に来た私が来てから今まではずっと神戸に住んでいます。最初は日本語学校に一年間半通いました。そこから神戸と言う国際都市について少しずつ分かって来ました。まず言いたいのが神戸市のゴミ分類についてです。これは日本きて初めて体験したことからです。日本語学校に入り、最初の歓迎会が終わり担当先生からの日本のルールについて教えて頂いた時一番驚いたことはゴミの分別でした。今までゴミを出したことは少ないですが、神戸市のように分別して、専用の袋に入れた出し方は初めてでした。多分こんな厳しいゴミ出しルールある国はないだと思います。あるとしても少ないと思います。これは初めて外国来た私にとって非常に面倒くさいと思いました。周りの外国の人と話し合うとみんなそういう感想でした。そこで自分でどうしてこうしているのかを疑問し、ネットで調べて見るとやはりいい環境を作り、住みやすいところをつくるためでした。このことから私がどうして日本が世界に綺麗さで有名になったことがわかりました。それは政府のいい方針があり、市民の自覚性は不可欠なものです。今の私も最初の考え方が変わり、今のゴミの出し方に慣れて来ました。時々ポイ捨ての人見合うと凄く嫌になります。もし

可能であれば将来母国帰ると自分の故郷でもこう言うゴミの出し方を推奨したいです。



次に言いたい印象深いことは神戸の夜景が一番綺麗なところハーバーランドです。最初ハーバーランド行った時本当にその景色に驚きました。その時自分がもしここアルバイトとかしたら疲れることないと思い、そこからずっとハーバーランドの近いところに仕事探すようにしました。嬉しいことに、本当にそこからアルバイト見付き、今までやっています。それが私日本きてから初めてのアルバイトでした。最初はいる時は人間関係とかよくわからないので結構不安でした。でもそこ入って先輩たちから丁寧に教えてもらい、周りの人も優しく本当にいい雰囲気でした。そこから神戸の人達の優しさ、更に日本人は優しいと言うことがわかりました。ここあげた写真の小さいポートタワーは私が最初いく時はなかったのです。この小さいポートタワーは観光船の社員がお正月の時作ったものです。神戸市のニュースにもでていたと思います。私の部門が毎朝これを出して、よる十時前にこれを片付けています。神戸市に来たらハー

バーランドの夜景を見に行くことは必須だと思っています。コロナが落ち着いたら自分の親も日本に来ると言っていましたので、絶対ここ連れて行きたいと思っています。



三番目に紹介したいのはわたしが見た神戸の桜です。私は初めて神戸の桜見たのが名谷の上の方の山を登って桜をみました。それは日本語の学校にいた時カナダの友達いいところ見つけましたので一緒に桜見ながらお酒飲まないですかと誘われて当時の日本語学校のクラスメートのベトナムの友達、ミャンマーの友達、カナダの友達、後中国の友達と一緒に去了。始めて桜の下いろいろな国の友達と一緒に酒飲みながら話合いました。途中どうして桜は日本の国花だろうという質問があり、ネットで調べて見ました。桜は一気に美しい花を咲かせ、あっという間に散ってしまいます。その儚さが日本人の心を惹きつけます。また「花見」では友人や会社の仲間たちと、桜を見ながら食事をしたり、お酒を飲んだり楽しい時間を過ごします。日本人

の心と大事にされている行事が国花として選ばれている理由といえます。日本の国花はただ「国を象徴している花」だけではなく、日本人の昔からの歴史や性格を表しているということを知ることが出来ました。日本人独特の感受性は様々な物や事に影響しているのだと思うと、日本文化の誇らしさにも感じました。お花見に行っているいろいろな国の文化をお互いに聞き、いろいろな国の言葉で一つの意味を表すことの面白さを感じまして、「文化」と言う言葉の晴らしさを体験しました。

神戸に四年間生活した私が見た神戸は国際的、整齊、高いビルやにぎやかな通りがたくさんありまして綺麗な都市です。夜になるとバーの内外で大勢の人が大声で叫び、アンティークの街並みがブランドビールの広告ライトで点滅し、何千ものライトが明るく輝き、高層ビルが突然宝石を引っかけた服を着て、通りが輝く銀河に変わり、人々をリラックスさせて行きます。日本に留学し、そして神戸を選んだことは良かったと思います。



日本人から見た留学生



名前：許 ^{キョ} ^{カブン} 佳雯
出身：中国
所属：神戸大学
国際文化学研究科
修士課程
2年

この度、私は2人の友人に頼み、学生と社会人との二つの視点から文章を書いていただきました。お二人のご協力にとっても感謝しております。では、早速お二人からみた留学生がどんな姿であろうかご覧いただければ嬉しく思います。

■日本人学生から見た留学生

神戸は観光都市としては大阪や京都の陰に隠れがちですが、歴史的にみると交易都市として古くから日本の窓口としての誇りがあります。私の実家から徒歩五分のところには孫文が晩年を過ごした中国の革命家・思想家である孫文を顕彰する日本で唯一の施設である移情閣もあります。初めて神戸に来た人なら、大阪や京都とはまた違った日本らしさ、多様性を柔軟に受け入れる文化を感じる事がで

きるのではないのでしょうか。その歴史を織り込んだ神戸に根づくカルチャーが、グローバルネットワークを育む土壌となっていると感じます。

私は、生まれてから今まで21年間を兵庫県で過ごしており、そのうち20年間は神戸市で暮らしています。生粋の神戸人で、実家も神戸市にあります。そんな私がなぜ神戸市内にある在日留学生寮でレジデントアシスタントとして一人暮らしをしているのでしょうか。その理由として、私には世界に開かれた港町である神戸が、留学生の受け入れと共栄を通して、観光としてだけでなく外国人の方々が暮らしやすい街となり、神戸を「第二のふるさと」にしてほしいという想いがあります。それは私が神戸を好きなだけでなく、留学先として偶然もしくは必然的に、神戸を選んでくれた方々とのご縁を大切にしたいと考えており、私にとって留学生の皆さんは「外国人」ではなく家族のような存在だからだと思います。実際に今でも、帰国した留学生が私の両親の体調を心配してくれたり、母国の博物館で神戸の特集をしていた時に連絡をくれたり、関西で大雨があったと報道されたときには心配して支援を申し出てくれたりしました。神戸のことを時々懐かしく思いだしてくれたり、土地としてではなく、そこにいる人のことと共に神戸という街を想像してもらえたりすることは喜びです。



コロナでない時のクリスマスパーティーで「最後の晚餐」を真似して写真を撮ってみた



寮で寮生の皆さんと一緒にオリンピックの開会式を見た

昨今のコロナ禍では、神戸×留学という神戸で留学することの意味がより強まったと感じています。自粛下では県外の移動や不要不急の外出が制限され、市や県からのレポートや宣言が私たちの日常生活を規定するようになったため、神戸というエリアとしての日本が意識されるようになりました。これは決して消極的な意味だけではなく、日常の中で地元である神戸の新たな良さを発見することができるようになったと言えます。私は、今回作文を引き受けた許さんと、同フロアに住んでいます。自粛生活が始まってからは、彼女と月に数回、朝活と称して近所のパン屋さんに朝ごはんを買いに行き、風通しの良い公園のベンチで並んで朝ごはんをするようになりました。（パン消費量が万年全国2位の神戸市での正しい朝の過ごし方だと思います。）神戸のパン屋さんと一緒にくりに言っても、硬さの違い、小麦粉の匂い、地産野菜のトッピングなど、毎度職人のパン愛や神戸愛、おもてなしの心を感じて幸せな気持ちになることができます。その間彼女とは、日常にある小さな話や将来に関する深い話までいろんなことを話します。視点がいつも長期的な未来や周りの人への感謝や恩返しに向いている彼女の話を知ると、非常に良い影響を受けることができます。

以上のように、私は神戸と世界のつながりを常に感じ、神戸に住む留学生がより豊かな生活を送ることができることを願っています。そして私自身も、彼らと一緒に様々な学びや発見を得て、これからも充実した共同

生活を送っていきたいです。

■日本の社会人から見た留学生

私は服の販売をしています。私が留学生と一緒に働くきっかけになったのは、神戸の元町に仕事場が異動になった8年前から始まっています。

販売の仕事はお客様の欲しいイメージの物を提案したりすることも多く、当時からお店には観光客がいらっしやっていて、自分が話せなくて困っている時に助けてくれることが沢山ありました。その時彼女達の表情は母国語を話すスムーズさとお客様とのうちとけ方が距離がなく、これが彼女達の素なんだと新たな表情を見れて嬉しく感じたことを覚えています。

どの留学生にもいえることは、一生懸命で気づいたら日本語がすごく上達していて、「自分がどうしたい、どうなりたい」を叶えています。よっぽど同じ日本人の学生よりも厳しい中で働いているのに、すごくアグレッシブで、チカラがいつも貰えます。

卒業の際には、その存在の大きさからいつも寂しくなってしまうのですが、その後の就職先の話や、彼女達が楽しく明るく日本で過ごしている様子を聞くだけで嬉しくなります。いつの時期も海外の方を働ける環境はいろんな刺激を受けれて頑張りをみれて、しあわせな環境だと思います。私も少しの期間ですが、何か彼女達に与えられるように、関わっていきたいと思います。



バイト先でお世話になった方々

時間しかない



パラウ アンドレス ハビエル
名前：PALAU ANDRES JAVIER
出身：スペイン
所属：神戸大学
国際人間科学部
4年

高校を卒業してすぐスペインから日本に留学しました。最初、日本人の友達を作るためにストリートバスケットや公園でよくスポーツに行っていました。日本語学校のときでしたので、外国人の友達が簡単に出会うことができましたが、日本人と友達になる場はなかなかなかったわけです。しかし、やっと神戸大学に入学したときに急に多くの日本人の友達を作ることができて非常に嬉しかったです。大学生活で全国から様々な人と時間を過ごすことが楽しみでした。ところで、一つのもの

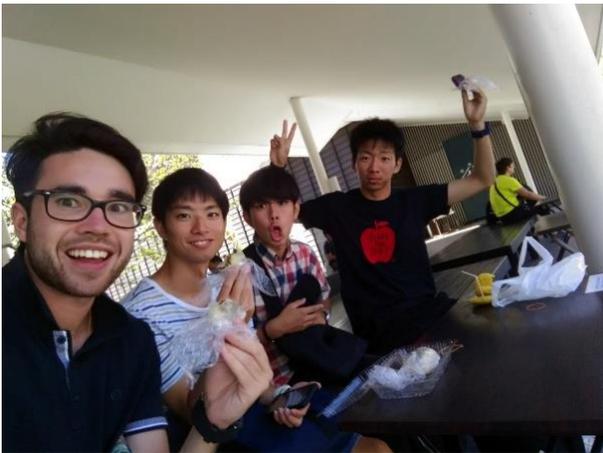
私にとって初めて邪魔になりました。それは「時間」でした。

大学1日目のことです。オリエンテーションの情報が大量で、早速いくつかの重要な締め切りの知らせなどがありました。そこで、紙の手帳を出した周りの大学生が少なくはなかったです。高級なテクノロジーで有名な日本ではまだ紙手帳を使っている若者がいて驚きました。このように伝統とイノベーションの両方のある日本文化は魅力的です。とにかく、時間がたつにつれて人々がアルバイトをしはじめたり、サークルや部活に入ったりしてその手帳はますます予定でいっぱいになっていきました。大学生の友達と会うことは難しくないと思っていましたが、想像以上に困難でした。少しずつ次の言葉が耳に入るようになりました：「時間がない」。友達と予定を合わせることは期末レポートを提出するより難しい課題になっていきました。一度友達にディナーしようと言ったときに、手帳またはスマホのカレンダーを出して確認した後に来月のなん日の午後6時以降は空いていますと言われました。私は笑いを抑えることができ



大学の友達とヨーロッパ旅行でローマに行ったとき

ませんでした。大学生なのに、アメリカ大統領より忙しいですねと彼に言いました。それから、私はたまには予定合わせる際に再来年の7月3日の午後2時なら空いていますと冗談で言います。



大学の友達と熊本に行ったとき

明らかに時間の感覚がとても異なります。私は1週間感覚で予定を立てますが、周りは1か月先に生きていますのでなかなか面白いと言えば面白いですが、それは何回も起きたときに本気で怒りました。私もアルバイトや多くの予定があり暇人ではありませんので、忙しいということは理解できます。しかし、忙しいだとしても「時間がない」という言葉を聞くことはとても耐えられなくなりました。そして疑問を抱くようになりました。本当に時間がないのでしょうか。ある日はアルバイトのシフトがあっても、1日24時間アルバイトがあるはずがないでしょう。時間を作りたければ必ず時間を見つけることができると思います。実際に唯一みんな平等にあることは時間です。1日24時間をどう管理するかによりますが、できることは想像以上で、たくさんの時間です。態度次第だと思います。そのため、「時間がない」ではなく、私は「時間しかない」と言っています。時間をポジティブに捉えれば、人生では10倍のことができるかもしれません。カレンダーでは1日が小さい四角に過ぎませんが、1日はとても長く、大き

いと考えれば本当に人生が変わります。友達とこのような話をしてから、より簡単に会えるようになりました。一緒にヨーロッパに行くまでのプランもできましたので非常に嬉しかったです。

ちなみに、「みんなが唯一平等にあることはなんですか」という話がありましたが、それは熊本出身の友達と行った最高の露天風呂で話してきた知らないおじいちゃんからの説教でした。確かに納得しました。今年は大学4年生ですが、残りの半年の大学生生活の時間を最大限に使いたいです。大学生活があっという間でしたが、まだまだそれを言うことが早いです。半年あります。友達や大切な人と一緒に過ごす時間を作ることが相変わらず楽しみです。時間しかないので、充実した毎日が待っています。



福岡のバンクシーのアートの写真。時間について

田舎から来た
村里来的



名前：劉 寧
リュウ ネイ
 出身：中国
 所属：神戸大学
 海事科学研究科
 修士課程
 2年

今年、神戸大学大学院海事科学科で開催されているブラッシュアップ日本語授業を受け始めました。第一回目の授業で自己紹介をして、先生にびっくりされました。「劉さんは3人兄弟なんですか。珍しいですね。先生はボランティアの日本語教師として6年間務めていて、たくさんの中国人の留学生に会いましたが、その中で一人だけ二人兄弟で、全員一人っ子でした。」と、先生に言われました。

自分の小中高校のクラスメイトはもちろん、大学までのクラスメイトも、兄弟が多かったです。なぜ先生と私との中国人の学生に対するイメージは、そのような差があったのでしょうか。やはりその理由は、自分のクラスメイトは田舎出身者が多かったけど、その一方で、一般的には中国人の留学生は都市出身者が多いからです。

そういえば、他の異文化コミュニケーション・イベントでも、特技や趣味などの定番の話題で、他の学生の「子供のときから、箏を学び始めました。」「ピアノができます。」などの話を聞きながら、気まずい雰囲気になった経験もありました。都市の学生と違って、自分には特技を学ぶ機会が何もありませんでした。料理はできるのですが、小学生の頃からいやいや長年家族の家事を担当していたために、人生の長い間料理を作るのが大嫌いでした。結局、唯一の特技である料理についての話でもたくさん話せませんでした。

今回この留学生が集まって作る会報をきっかけに、是非自分しかできない、自分の田舎での

成長の様子を紹介して、将来田舎出身の留学生とのコミュニケーションの話題をちょっとでも広げられればと思います。



図 i お菓子をプレゼントしてくれた猫神

小学校に入学する前、兄弟が多いため私は祖母と一緒に暮らしていました。小さいから、やはり母の側にいたいの、

なかなか帰れませんでした。その時、祖母は様々な神話を語ってくれました。ある日、帰りたくて泣いたとき、祖母は「ドアからの音が聞こえない？」と話しながら、私を連れて見に行きました。ドアの隙間にお菓子がありました。「さあ、前に語っていた神話の猫神が、寧ちゃんの泣く声を聞いて、お菓子をプレゼントしてきました。もう泣いちゃだめだよ。」と、祖母は言いました。実は祖父が買ってくれたお菓子でした。



図 ii 農地にいた魚

※図 i ~ iiiの絵の作者：神戸大学大学院工学研究科 楊曇



図 iii 子供の探険家の神殿

ある日、叔母たち5人はリヤカーで水を運んで、祖母の作物に水をあげていました。私は農作物を眺めていました。青空の下で様々な農作物の苗が青々としていました。その様子は、まるで絵の中を走っているかのようなようでした。そのとき、わたしは一株の苗の側に、小さな魚を一匹見つけました。あげた水が溜まったところで、その子はとても元気に泳いでいました。太陽が沈むにつれて、水溜まりがどんどん小さくなっていて、わたしたちは小魚を水桶に取って持ち帰りました。

祖母によると、彼女は若いとき、大雨の日に魚が空を飛ぶのをよく見たそうです。雨が止んだら、農地に落ちた魚を拾いに行ったそうです。「なぜ魚が空を泳いで農地に來たの」と祖母に聞いたら、「大雨で、池か湖か水溜りか分からなくて、間違えて來たのかもしいない」と答えました。

田舎には「子供の探険家の神殿」があります。元の住民が転出した後は再分配待ちの空き家となっていた廃墟です。祖母の家の向こうにこのような空き家がありました。子供のとき、よく叔母に連れられて訪ねました。私を崩れていた壁の上に座らせて、叔母は建物の周囲を覆った木々や雑草の中で宝物を探しました。運がよければ、スイカとかが見つけられるかもしれません。雲の間から青空がのぞき、宝物を期待してドキドキしていたシーンでした。

大人になって両親に聞くと、田舎の人は、自分の家や農地の敷地の使用権しか持っていません。転出届を提出したら、現在まで使っていた自分の部屋や農地の敷地の使用権を失います。新しく産まれた赤ちゃんや結婚して入籍してきた人に再分配します。

現在でも古い建物や物語に興味があります。次の文章は、2019年1月29日に東京で書いた日記です。

私は通学のついでによくこの住宅を覗く。ツタの絡んだ家は静謐な空間を感じさせ、森林みたいな庭はここが空家を暗示させてるけど、なんか神秘的な人物が中にいる気がする!!お姫様とか、折り目正しい執事とか、あ!この家が大好き!!



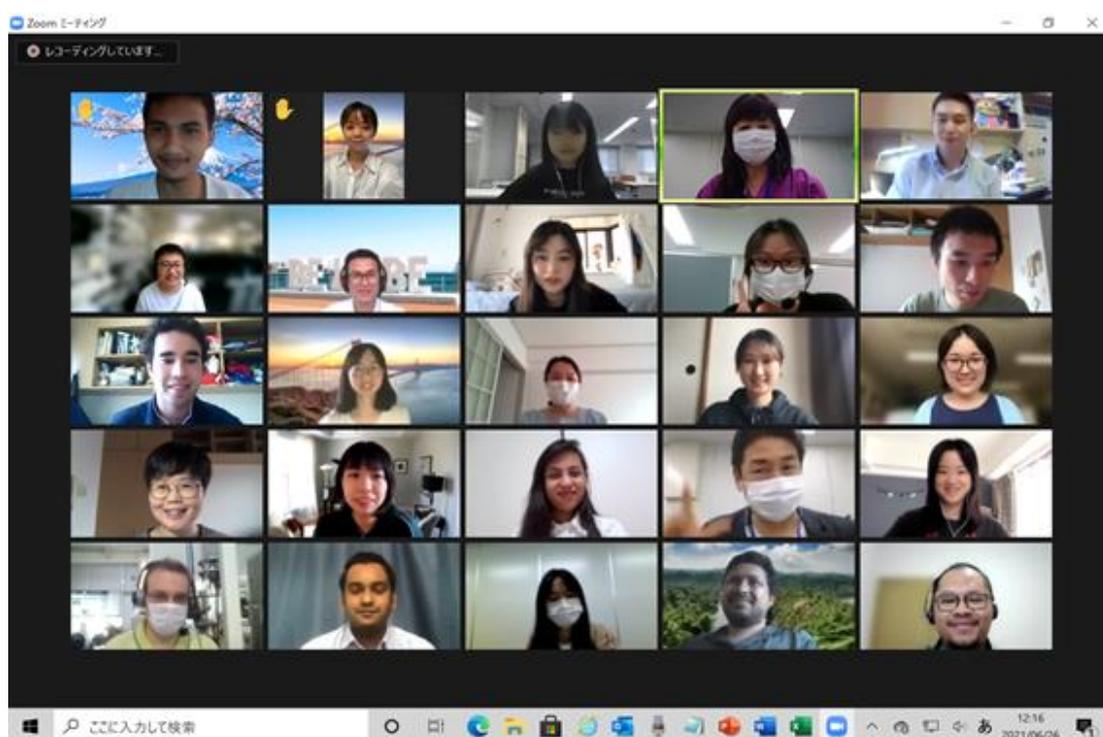
図iv 2018年東京都新宿区下落合 筆者撮影



図v 2019年東京都新宿区下落合 筆者撮影

第 1 回奨学生オンライン実行委員会

今年度は新型コロナウイルスの影響により、支給式、奨学生の集いなどのイベントは残念ながら中止となりましたが、6月26日奨学生の実行委員会をオンラインで開催しました。



第1回異文化交流サロン

奨学生が母国について発表し、神戸市民と交流するために今年度も「異文化交流サロン」を開催しました。初めてオンラインと対面のハイブリッドで実施し、たくさんの人にご参加いただきました。

日時 2021年8月28日（土）

場所 KICC（三宮）及び ZOOM

テーマ 「夏」

発表者 ・チョウハクブン（中国・甲南大学）

「中国東北地方の歴史文化及び現代版の夏の生活」

・Udari Jayalath（スリランカ・流通科学大学）

「インド洋の真珠と呼ばれるスリランカについて」

・ヴォティミフオン（ベトナム・流通科学大学）

「ベトナムにおける若者の夏休みの過ごし方について」

・Inggang Nuralam（インドネシア・神戸大学）

「Summer in Indonesia」

・林綺婷（中国・神戸大学）

「日中における定年退職後の夏生活」



第2回異文化交流サロン

新長田に移転して初めてのイベントをオンラインと対面で実施しました。

日時 2021年10月23日(土) 13:00~14:30

場所 KICC(新長田)及びZoom

テーマ 観光(その国の魅力)留学生が教えるとおきの観光プラン

発表者 ・キムアキさん(中国)神戸大学

「中国北境に埋まれた古代王国への招待」

・ズオンティフォンさん(ベトナム・日本経済大学)

「北ベトナムの観光地」

・パラウ アンドレス ハビエル(スペイン・神戸大学)

「スペインへの旅は体験だ」

・タイティハジャンさん(ベトナム・日本経済大学)

「ベトナム南部観光地」





アフターコロナを見据え、奨学生の皆様へ

(公財) 神戸国際コミュニティセンター
理事長 武田 廣

神戸・菅原奨学生の皆様、早いもので今年もあと残り1カ月となりました。

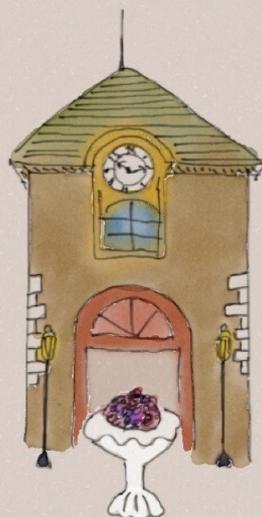
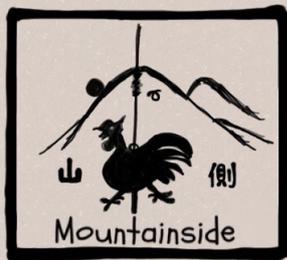
新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、今年は日本でも感染者数が大幅に増加しました。学生である皆様もオンライン授業をはじめ、新しい生活様式を取り入れ、日本での生活を送っているものと思います。

神戸市内には現在 48,000 人を超える外国人が住んでいますが、入国管理法の改正などにより、今後更なる増加が見込まれています。そこで、在住外国人に対するセンターの利便性・認知度を高め、在住外国人支援の取り組みを拡充するため、今年4月に「神戸国際コミュニティセンター」に財団の名称を変更するとともに、10月には本部拠点を新長田に移転し、三宮・御影に「にほんごプラザ」を新設しました。

今後は、これらの拠点で在住外国人支援団体等と連携しながら、在住外国人にとって暮らしやすいまちづくりを進めていきます。

奨学生の皆様には、神戸国際コミュニティセンターの拠点を活用し、情報発信などにもご協力をいただければと考えています。

今後も引き続きそれぞれの専門の分野で努力を続けていかれると思いますが、是非とも神戸で暮らす中で地域の方々とのふれあい、この街の良さを発見していただき、素晴らしい思い出を作って、神戸の魅力を母国の方々へ紹介してください。



公益財団法人
神戸国際コミュニティセンター

〒653-0036

神戸市長田区腕塚町5-3-1

アスタくにづか番館南棟4F

TEL:078-742-8721

FAX:078-691-5553

HP : <https://www.kicc.jp>

E-mail : ryugakusei@kicc.jp

2021年（令和3年）12月発行

